鈴鹿亀山地区
高齢者介護に関する調査結果報告書
〔介護予防・日常生活圏域ニーズ調査〕

令和 8 年 3 月

鈴鹿亀山地区広域連合

目次

Ⅰ　調査の概要..... 1

1 調査の目的..... 1

2 調査の方法 1

3 配布・回収数 1

4 報告書の見方(注意事項)..... 1

Ⅱ　調査結果..... 3

あなたのことについて 3

1 あなたのご家族や生活状況について 7

2 からだを動かすことについて..... 17

3 食べることについて..... 26

4 毎日の生活について..... 31

5 地域での活動について 40

6 就労について..... 51

7 あなたとまわりの人の「たすけあい」について..... 54

8 健康について..... 77

9 今後の介護や在宅医療について..... 91

10 認知症について..... 103

11 介護や保健福祉に関する相談について 110

Ⅰ　調査の概要

1 調査の目的

この調査は、令和 9 年度から実施する「第 10 期介護保険事業計画」の策定作業の中で、介護保険事業の円滑な実施と、高齢者の保健福祉サービスを充実させるための基礎資料として活用することを目的に実施したものです。

2 調査の方法

① 調査対象地域　鈴鹿亀山地区全域
② 調査対象者　鈴鹿亀山地区にお住まいの 65 歳以上の介護保険の被保険者で、介護保険の要介護認定（要介護 1～5）を受けていない方
③ 調査期間　令和 7 年 12 月(調査基準日は令和 7 年 11 月 15 日)
④ 調査方法　郵送によって配布し、調査票またはウェブにて回答・回収

3 配布・回収数

配布数	未着数	有効配付数	回収数	回収率	白紙等	有効回収数	有効回収率
2,000	3	1,997	1,244	62.3%	6	1,238	62.0%
うち調査票			1,076	53.9%	6	1,070	53.6%
うちウェブ			168	8.4%	―	168	8.7%

4 報告書の見方(注意事項)

① グラフおよび表中の n 数(number of cases)は、「無回答」や「不明」を除く回答者数を表しています。
② 調査結果(グラフおよび表中)の比率は、その設問の回答者数(n 数)を分母として、小数点以下第 2 位を四捨五入して算出し、小数点以下第 1 位までを表示しています。したがって、端数処理のため、回答比率の合計は必ずしも 100%にならない場合があります。
③ 複数回答形式(複数の選択肢から 2 つ以上の選択肢を選ぶ方式)の設問については、その設問の回答者数(n 数)を分母として比率を算出しています。したがって、すべての回答比率の合計が 100%を超えることがあります。
④ 令和 4 年度に実施した前回調査（第 9 期介護保険事業計画の策定にかかる調査）において同一の設問を行っている場合は、前回調査との比較を行っています。その際、前回調査については「第 9 期調査」と表示しています。

⑤　選択肢の語句が長い場合、本文や図表中では省略した表現を用いている場合があります。
⑥　参考として代表的な設問に対しクロス集計分析を行っています。その際、回答数の少ない属性についてのコメントは控えている場合があります。
⑦　クロス集計においては、該当する相互の設問の「無回答」や「不明」を除く有効回答数を分母として、比率を算出しています。
⑧　地区別クロス集計については、日常生活圏域である『鈴鹿第1』、『鈴鹿第2』、『鈴鹿第3』、『鈴鹿第4』、『鈴鹿第5』、『鈴鹿第6』、『鈴鹿第7』、『鈴鹿第8』、『亀山第1』、『亀山第2』の10区分での集計を行っています。
⑨　性・年齢別クロス集計については、性別の回答区分のうち「回答しない」は回答者数が少数であるため、匿名性への配慮から掲載を省略しました。なお、表中の合計や構成比は、集計対象の範囲により全体値と一致しない場合があります。区分については『男性65～74歳』『男性75～84歳』『男性85歳以上』『女性65～74歳』『女性75～84歳』『女性85歳以上』の6区分での集計を行っています。

Ⅱ　調査結果

あなたのことについて

問（1）　調査票を記入されたのはどなたですか。
【第 10 期調査 n=1,165、第 9 期調査 n=1,217】

「あて名のご本人が記入」が 94.2%で最も多く、「ご家族が記入〔あて名のご本人からみた続柄〕」が 5.8%で続いています。

	第10期調査	第9期調査
あて名のご本人が記入	94.2%	94.7%
ご家族が記入〔あて名のご本人からみた続柄 〕	5.8%	5.2%
その他	0.2%	0.2%

問（2）　令和 7 年 11 月 15 日現在のあなたの年齢をお答えください。
（1 つを選択）【第 10 期調査 n=1,197、第 9 期調査 n=1,257】

「70～74 歳」が 26.6%で最も多く、次いで「75～79 歳」が 25.2%、「65～69 歳」が 20.3%、「80～84 歳」が 18.6%となっています。

第 9 期調査と比べると、「70～74 歳」及び「65～69 歳」の割合は減少している一方、「75～79 歳」及び「80～84 歳」の割合は増加しており、回答者の年齢構成はやや高齢化していることがうかがえます。

	第10期調査	第9期調査
65～69歳	20.3%	22.8%
70～74歳	26.6%	29.7%
75～79歳	25.2%	21.6%
80～84歳	18.6%	16.0%
85～89歳	7.2%	6.7%
90～94歳	1.6%	2.8%
95～99歳	0.4%	0.4%
100歳以上	0.1%	0.0%

問（3）　性別をお答えください。（1 つを選択）
【第 10 期調査 n=1,193、第 9 期調査 n=1,232】

「女」が 53.1%、「男」が 46.9%で続いています。

第 9 期から第 10 期にかけて性別構成に大きな変化はみられません。

	第10期調査	第9期調査
男	46.9%	48.3%
女	53.1%	51.7%
回答しない	0.1%	

問（4）　現在、どちらの地区にお住まいですか。（1 つを選択）
【第 10 期調査 n=1,151、第 9 期調査 n=1,235】

「玉桜」が 8.9%で最も多く、「牧田」が 5.2%で続いています。最も少ないのは「坂下」で 0.1%です。

	第10期調査	第9期調査
加佐登	1.9%	1.8%
石薬師	3.1%	3.4%
久間田	1.1%	1.0%
椿	0.8%	0.7%
深伊沢	1.3%	1.0%
鈴峰	1.5%	1.1%
庄内	1.5%	1.2%
国府	4.7%	5.5%
庄野	2.7%	1.2%
牧田	5.2%	4.9%
井田川	0.9%	0.7%
河曲	4.5%	3.2%
一ノ宮	2.1%	2.2%
神戸	2.4%	2.3%
長太	3.0%	3.3%
箕田	2.2%	2.8%
若松	2.3%	2.8%
玉桜	8.9%	11.4%
稲生	4.3%	4.8%
飯野	4.4%	4.3%
白子	3.9%	4.0%
鼓ヶ浦	1.5%	2.2%
愛宕	1.3%	1.6%
旭が丘	3.6%	2.3%
栄	2.9%	2.9%
郡山	3.2%	1.9%
天名	1.2%	1.1%
合川	0.9%	1.2%
井田川北	3.5%	2.8%
井田川南	0.8%	2.3%
川崎	2.5%	2.9%
野登	1.2%	0.6%
東部	1.7%	1.8%
南部	0.9%	0.4%
昼生	0.7%	1.1%
白川	0.7%	0.6%
神辺	1.1%	1.9%
野村	0.5%	0.7%
城東	0.3%	0.6%
城西	0.7%	0.3%
城北	1.4%	0.8%
御幸	0.2%	0.3%
本町	0.8%	1.0%
北東	0.6%	0.4%
天神・和賀	1.2%	0.8%
関宿	1.9%	1.9%
関北部	1.1%	0.5%
関南部	0.3%	0.1%
坂下	0.1%	0.3%
加太	0.5%	0.8%

問（5）　介護保険の要支援の認定を受けていますか。また、基本チェックリストによる介護予防・日常生活支援総合事業の対象者の判定を受けていますか。（1 つを選択）【第 10 期調査 n=1,176、第 9 期調査 n=1,230】

「いずれも受けていない」が 91.4%で最も多く、「要支援 1 の認定を受けている」が 3.2%で続いています。最も少ないのは「基本チェックリストによる事業対象者の判定を受けている」で 0.7%です。

第 9 期から第 10 期にかけて「いずれも受けていない」は 0.9 ポイント減少していますが、引き続き 9 割を超えています。

	第10期調査	第9期調査
要支援１の認定を受けている	3.2%	3.2%
要支援２の認定を受けている	2.0%	2.0%
基本チェックリストによる事業対象者の判定を受けている	0.7%	0.3%
いずれも受けていない	91.4%	92.3%
わからない	2.6%	2.2%

1 あなたのご家族や生活状況について

問 1　家族構成をお教えください。（1 つを選択）
【第 10 期調査 n=1,198、第 9 期調査 n=1,235】

「夫婦 2 人暮らし（配偶者 65 歳以上）」が 45.2%で最も多く、次いで「息子・娘との 2 世帯」が 18.9%、「1 人暮らし」が 17.1%となっています。「夫婦 2 人暮らし（配偶者 64 歳以下）」は 4.9%で最も少なくなっています。

第 9 期から第 10 期にかけて「夫婦 2 人暮らし（配偶者 65 歳以上）」は 0.5 ポイント減少していますが、引き続き高い割合を占めています。

	第10期調査	第9期調査
１人暮らし	17.1%	16.2%
夫婦２人暮らし(配偶者65歳以上)	45.2%	45.7%
夫婦２人暮らし(配偶者64歳以下)	4.9%	4.4%
息子・娘との２世帯	18.9%	21.0%
その他	13.9%	12.7%

問 1-②　問 1 で「夫婦 2 人暮らし(配偶者 65 歳以上)」「夫婦 2 人暮らし(配偶者 64 歳以下)」「息子・娘との 2 世帯」「その他」と回答した方にお伺いします。あなたは、日中、一人になることがありますか。（1 つを選択）
【第 10 期調査 n=974、第 9 期調査 n=1,008】

「たまにある」が 43.1%で最も多く、「ない」が 30.2%で続いています。最も少ないのは「週に 3～4 日ある」で 11.6%です。

「たまにある」は第 9 期から第 10 期にかけて 0.7 ポイント減少しました。日中に一人になることがある人が一定数みられます。

	第10期調査	第9期調査
週５日以上ある	15.1%	13.0%
週に３～４日ある	11.6%	12.8%
たまにある	43.1%	43.8%
ない	30.2%	30.4%

問 2　あなたは、普段の生活でどなたかの介護・介助が必要ですか。
（1 つを選択）【第 10 期調査 n=1,205、第 9 期調査 n=1,228】

「介護・介助は必要ない」が 92.1%で最も多く、「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」が 4.2%で続いています。最も少ないのは「現在、何らかの介護を受けている」で 3.7%です。

第 9 期から第 10 期にかけて「介護・介助は必要ない」は 1.0 ポイント増加しました。引き続き「介護・介助は必要ない」が 9 割を超えています。

	第10期調査	第9期調査
介護・介助は必要ない	92.1%	91.1%
何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない	4.2%	4.7%
現在、何らかの介護を受けている	3.7%	4.2%

性・年齢別クロス

性・年齢別にみると、特に女性 85 歳以上と男性 85 歳以上のグループで『介護・介助が必要』との回答が多く、それぞれ 28.5%、15.4%となっています。また、「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」も一定数みられます。統計的には性・年齢別で有意な差がみられます。

	男性65～74歳	男性75～84歳	男性85歳以上	女性65～74歳	女性75～84歳	女性85歳以上
件数(n値)	276	233	39	277	272	63
介護・介助は必要ない	96.7%	91.4%	84.6%	96.0%	90.8%	71.4%
何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない	1.8%	5.6%	2.6%	3.2%	5.1%	9.5%
現在、何らかの介護を受けている	1.4%	3.0%	12.8%	0.7%	4.0%	19.0%

世帯類型別クロス

世帯類型別にみると、「介護・介助は必要ない」は夫婦 2 人暮らし（配偶者 65 歳以上）で 98.3%と最も多くなっています。一方、1 人暮らしとその他では 1 割以上が『介護・介助が必要』と回答しています。統計的には世帯類型別で有意な差がみられます。

	１人暮らし	夫婦２人暮らし（配偶者65歳以上）	夫婦２人暮らし（配偶者64歳以下）	息子・娘との２世帯	その他
件数(n値)	199	533	58	222	162
介護・介助は必要ない	88.4%	94.0%	98.3%	92.8%	87.0%
何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない	6.0%	3.6%	0.0%	3.6%	6.2%
現在、何らかの介護を受けている	5.5%	2.4%	1.7%	3.6%	6.8%

問 2-②　問 2 で「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」または「現在、何らかの介護を受けている」と回答した方にお伺いします。介護・介助が必要になった主な原因はなんですか。（複数選択可）
【第 10 期調査 n=92、第 9 期調査 n=96】

「高齢による衰弱」が 33.7%で最も多く、「骨折・転倒」が 23.9%で続いています。最も少ないのは「呼吸器の病気（肺気腫・肺炎等）」で 4.3%です。

「高齢による衰弱」は第 9 期から第 10 期にかけて 11.8 ポイント増加しました。介護・介助が必要になった主な原因として、「高齢による衰弱」の割合が高まっています。

	第10期調査	第9期調査
脳卒中（脳出血･脳梗塞等）	13.0%	6.3%
心臓病	12.0%	8.3%
がん（悪性新生物）	9.8%	9.4%
呼吸器の病気（肺気腫・肺炎等）	4.3%	12.5%
関節の病気（リウマチ等）	10.9%	18.8%
認知症（アルツハイマー病等）	7.6%	6.3%
パーキンソン病	6.5%	2.1%
糖尿病	10.9%	13.5%
腎疾患（透析）	4.3%	2.1%
視覚・聴覚障害	6.5%	13.5%
骨折・転倒	23.9%	20.8%
脊椎損傷	4.3%	11.5%
高齢による衰弱	33.7%	21.9%
その他	15.2%	13.5%
不明	0.0%	1.0%

問 2-③　問 2 で「現在、何らかの介護を受けている」と回答した方にお伺いします。主にどなたの介護、介助を受けていますか。（複数選択可）
【第 10 期調査 n=40、第 9 期調査 n=43】

「配偶者（夫・妻）」が 40.0%で最も多く、「娘」が 30.0%で続いています。最も少ないのは「兄弟・姉妹」で 5.0%です。

第 9 期から第 10 期にかけて「配偶者（夫・妻）」は 1.9 ポイント減少しました。また、「息子」や「孫」、「友人・知人・近所の人」などの割合が増加しており、介護・介助の担い手の広がりがうかがえます。

	第10期調査	第9期調査
配偶者（夫・妻）	40.0%	41.9%
息子	22.5%	16.3%
娘	30.0%	41.9%
子の配偶者	7.5%	14.0%
孫	10.0%	4.7%
兄弟・姉妹	5.0%	2.3%
介護サービスのヘルパー	12.5%	11.6%
友人・知人・近所の人	10.0%	2.3%
その他	12.5%	2.3%

問 3　現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか。（1 つを選択）【第 10 期調査 n=1,224、第 9 期調査 n=1,252】

「ふつう」が 60.7%で最も多く、「やや苦しい」が 21.0%で続いています。最も少ないのは「大変ゆとりがある」で 2.0%です。「ふつう」が 6 割を占める一方、「やや苦しい」や「大変苦しい」も一定数みられます。

第 9 期から第 10 期にかけて「ふつう」は 0.8 ポイント増加しました。

	第10期調査	第9期調査
大変苦しい	6.7%	7.3%
やや苦しい	21.0%	22.1%
ふつう	60.7%	59.9%
ややゆとりがある	9.6%	9.3%
大変ゆとりがある	2.0%	1.4%

問 4　お住まいは一戸建て、または集合住宅のどちらですか。（1 つを選択）【第 10 期調査 n=1,227、第 9 期調査 n=1,256】

「持家（一戸建て）」が 91.4%で最も多く、「民間賃貸住宅（集合住宅）」が 3.2%で続いています。最も少ないのは「民間賃貸住宅（一戸建て）」で 0.5%です。

「持家（一戸建て）」は第 9 期から第 10 期にかけて 0.9 ポイント減少しましたが、引き続き「持家（一戸建て）」が大半を占めています。

	第10期調査	第9期調査
持家（一戸建て）	91.4%	92.3%
持家（集合住宅）	1.9%	1.7%
公営賃貸住宅	1.0%	1.6%
民間賃貸住宅（一戸建て）	0.5%	0.2%
民間賃貸住宅（集合住宅）	3.2%	2.4%
借家	1.1%	1.2%
その他	0.9%	0.6%

問 5　現在のお住まいに対し、今後に向けて不安がありますか。（複数選択可）
【第 10 期調査 n=1,210、第 9 期調査 n=1,243】

「特にない」が 40.5%で最も多く、「家の維持修繕がしていけるか不安」が 33.1%で続いています。最も少ないのは「プライバシー面が不安」で 0.9%です。

第 9 期から第 10 期にかけて大きな変化はみられません。「特にない」が最も多い一方、「家の維持修繕がしていけるか不安」も 3 割を超えています。

	第10期調査	第9期調査
特にない	40.5%	40.3%
家賃が払っていけるか不安	2.1%	2.9%
水道光熱費が払っていけるか不安	5.0%	8.0%
家の維持修繕がしていけるか不安	33.1%	32.3%
家の清掃がしていけるか不安	13.1%	13.4%
バリアフリーになっていない	26.2%	27.0%
狭い（介護ヘルパーが入れないなど）	1.2%	1.6%
プライバシー面が不安	0.9%	1.5%
防犯面が不安	16.8%	10.2%
耐震性が低い	26.9%	22.0%
大雨の時に浸水の恐れがある	4.1%	5.1%
その他	2.9%	2.4%

性・年齢別クロス

性・年齢別にみると、「特にない」は男性 75～84 歳が 47.7%で最も多く、次いで男性 85 歳以上が 47.4%、女性 85 歳以上が 43.8%となっています。一方、「家の維持修繕がしていけるか不安」は男性 65～74 歳が 38.3%、女性 65～74 歳が 37.8%で比較的多く、「バリアフリーになっていない」は女性 65～74 歳が 28.1%で最も多くなっています。なお、統計的には性・年齢別で有意な差はみられません。

	男性65～74歳	男性75～84歳	男性85歳以上	女性65～74歳	女性75～84歳	女性85歳以上
件数(n値)	277	239	38	278	271	64
特にない	34.3%	47.7%	47.4%	35.6%	41.7%	43.8%
家賃が払っていけるか不安	4.3%	1.7%	0.0%	2.2%	0.7%	1.6%
水道光熱費が払っていけるか不安	7.2%	2.9%	2.6%	5.8%	3.0%	4.7%
家の維持修繕がしていけるか不安	38.3%	24.3%	28.9%	37.8%	33.6%	25.0%
家の清掃がしていけるか不安	11.9%	10.5%	7.9%	11.9%	17.0%	20.3%
バリアフリーになっていない	27.1%	26.8%	21.1%	28.1%	25.8%	18.8%
狭い（介護ヘルパーが入れないなど）	1.8%	0.4%	0.0%	1.8%	0.4%	1.6%
プライバシー面が不安	0.7%	0.8%	2.6%	1.1%	1.1%	0.0%
防犯面が不安	18.1%	13.8%	21.1%	17.6%	17.3%	17.2%
耐震性が低い	28.9%	23.8%	28.9%	28.4%	27.3%	23.4%
大雨の時に浸水の恐れがある	3.2%	5.0%	0.0%	5.4%	4.8%	0.0%
その他	3.2%	3.3%	5.3%	3.2%	1.8%	1.6%

世帯類型別クロス

世帯類型別にみると、「家の維持修繕がしていけるか不安」は 1 人暮らしとその他で比較的多くなっています。また、「バリアフリーになっていない」は夫婦 2 人暮らし（配偶者 64 歳以下）で比較的多くみられます。一方、「特にない」は息子・娘との 2 世帯と夫婦 2 人暮らし（配偶者 65 歳以上）で多くなっています。統計的には世帯類型別で有意な差がみられます。

	１人暮らし	夫婦２人暮らし（配偶者65歳以上）	夫婦２人暮らし（配偶者64歳以下）	息子・娘との２世帯	その他
件数(n値)	198	534	58	222	163
特にない	31.3%	43.1%	31.0%	46.4%	37.4%
家賃が払っていけるか不安	3.5%	2.1%	8.6%	0.9%	0.6%
水道光熱費が払っていけるか不安	6.1%	3.7%	10.3%	5.4%	3.7%
家の維持修繕がしていけるか不安	39.4%	30.0%	31.0%	32.4%	36.8%
家の清掃がしていけるか不安	21.2%	11.2%	10.3%	14.4%	10.4%
バリアフリーになっていない	27.3%	27.3%	34.5%	23.0%	24.5%
狭い（介護ヘルパーが入れないなど）	1.5%	0.7%	1.7%	1.8%	1.2%
プライバシー面が不安	2.5%	0.7%	0.0%	0.5%	0.6%
防犯面が不安	25.8%	14.2%	17.2%	14.9%	18.4%
耐震性が低い	26.8%	25.7%	22.4%	25.7%	35.0%
大雨の時に浸水の恐れがある	5.6%	2.4%	1.7%	4.1%	8.0%
その他	4.5%	3.4%	3.4%	0.9%	2.5%

問 6　現在のお住まいにこれからも住み続けたいと思いますか。（1 つを選択）【第 10 期調査 n=1,218、第 9 期調査 n=1,250】

「今後も住み続けたい」が 74.0%で最も多く、「できれば住み続けたい」が 17.6%で続いています。最も少ないのは「ぜひ住み替えたい」で 0.8%です。

「今後も住み続けたい」は第 9 期から第 10 期にかけて 1.4 ポイント減少しましたが、引き続き 7 割台半ばを占めています。

	第10期調査	第9期調査
今後も住み続けたい	74.0%	75.4%
できれば住み続けたい	17.6%	15.7%
機会があれば住み替えたい	3.6%	2.7%
ぜひ住み替えたい	0.8%	0.9%
どちらともいえない	2.8%	3.3%
わからない	1.2%	2.1%

問 6-②　問 6 で「機会があれば住み替えたい」または「ぜひ住み替えたい」と回答した方にお伺いします。具体的にどのような種類の住宅に住み替えたいですか。（1 つを選択）【第 10 期調査 n=52、第 9 期調査 n=41】

「家族の数（夫婦 2 人暮らしなど）に合った一般の「住宅やマンション」」が 32.7%で最も多く、「その他」が 25.0%で続いています。最も少ないのは「子どもなどが住む一般の「住宅やマンション」」で 7.7%です。

第 9 期から第 10 期にかけて「家族の数（夫婦 2 人暮らしなど）に合った一般の「住宅やマンション」」は 10.7 ポイント増加しています。住み替え先としては、一般の住宅やマンションを希望する人が多いことがうかがえます。

	第10期調査	第9期調査
見守りや食事サービスを受けられる「サービス付き高齢者向け住宅」	23.1%	31.7%
一定の身体介護や家事援助が受けられる「有料老人ホーム」	11.5%	7.3%
家族の数（夫婦２人暮らしなど）に合った一般の「住宅やマンション」	32.7%	22.0%
子どもなどが住む一般の「住宅やマンション」	7.7%	9.8%
その他	25.0%	29.3%

2 からだを動かすことについて

問 7　階段を手すりや壁をつたわらずに昇っていますか。（1 つを選択）【第 10 期調査 n=1,220、第 9 期調査 n=1,238】

「できるし、している」が 55.5%で最も多く、「できるけどしていない」が 24.3%で続いています。最も少ないのは「できない」で 20.2%です。

第 9 期から第 10 期にかけて「できるし、している」は 2.4 ポイント減少しました。

	第10期調査	第9期調査
できるし、している	55.5%	57.9%
できるけどしていない	24.3%	22.9%
できない	20.2%	19.1%

問 8　椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか。（1 つを選択）【第 10 期調査 n=1,220、第 9 期調査 n=1,247】

「できるし、している」が 77.0%で最も多く、「できるけどしていない」が 12.4%で続いています。最も少ないのは「できない」で 10.7%です。

「できるし、している」は第 9 期から第 10 期にかけて 2.3 ポイント増加しました。

	第10期調査	第9期調査
できるし、している	77.0%	74.7%
できるけどしていない	12.4%	12.7%
できない	10.7%	12.6%

問 9　15 分位続けて歩いていますか。（1 つを選択）
【第 10 期調査 n=1,221、第 9 期調査 n=1,253】

「できるし、している」が 74.9%で最も多く、「できるけどしていない」が 17.0%で続いています。最も少ないのは「できない」で 8.2%です。

第 9 期から第 10 期にかけて 1.6 ポイント増加しました。

	第10期調査	第9期調査
できるし、している	74.9%	73.3%
できるけどしていない	17.0%	17.6%
できない	8.2%	9.1%

問 10　過去 1 年間に転んだ経験がありますか。（1 つを選択）
【第 10 期調査 n=1,228、第 9 期調査 n=1,256】

「ない」が 68.3%で最も多く、「1 度ある」が 23.0%で続いています。最も少ないのは「何度もある」で 8.7%です。

第 9 期から第 10 期にかけて大きな変化はみられず、転倒経験の状況はおおむね横ばいで推移しています。

	第10期調査	第9期調査
何度もある	8.7%	9.2%
1 度ある	23.0%	22.0%
ない	68.3%	68.8%

問 11　転倒に対する不安は大きいですか。（1 つを選択）
【第 10 期調査 n=1,226、第 9 期調査 n=1,258】

「やや不安である」が 40.0%で最も多く、「あまり不安でない」が 26.5%で続いています。最も少ないのは「とても不安である」で 16.0%です。

第 9 期から第 10 期にかけて「やや不安である」は 0.9 ポイント増加しました。不安を感じる人が一定数みられます。

	第10期調査	第9期調査
とても不安である	16.0%	13.8%
やや不安である	40.0%	39.1%
あまり不安でない	26.5%	28.4%
不安でない	17.5%	18.7%

問 12　週に 1 回以上は外出していますか。（1 つを選択）
【第 10 期調査 n=1,225、第 9 期調査 n=1,259】

「週 2～4 回」が 46.8%で最も多く、「週 5 回以上」が 38.0%で続いています。最も少ないのは「ほとんど外出しない」で 4.6%です。

第 9 期から第 10 期にかけて「週 2～4 回」が 1.2 ポイント増加しました。週 1 回以上外出している人が多い状況が続いています。

	第10期調査	第9期調査
ほとんど外出しない	4.6%	5.6%
週１回	10.7%	11.4%
週２～４回	46.8%	45.6%
週５回以上	38.0%	37.4%

問 13　昨年と比べて外出の回数が減っていますか。（1 つを選択）
【第 10 期調査 n=1,229、第 9 期調査 n=1,257】

「減っていない」が 38.9%で最も多く、「あまり減っていない」が 38.2%で続いています。最も少ないのは「とても減っている」で 4.3%です。

第 9 期から第 10 期にかけて「減っていない」は 4.9 ポイント増加しました。外出回数の減少を感じていない人が増えており、全体としては外出機会の回復や維持の傾向がうかがえます。

	第10期調査	第9期調査
とても減っている	4.3%	6.0%
減っている	18.6%	21.4%
あまり減っていない	38.2%	38.7%
減っていない	38.9%	34.0%

問 14　外出を控えていますか。（1 つを選択）
【第 10 期調査 n=1,206、第 9 期調査 n=1,243】

「いいえ」が 83.7%、「はい」が 16.3%となっています。

第 9 期から第 10 期にかけて「いいえ」は 19.8 ポイント増加しました。「外出を控えていない」が 8 割を超えていますが、「はい」も一定数みられます。

	第10期調査	第9期調査
はい	16.3%	36.1%
いいえ	83.7%	63.9%

認定状況別クロス

認定状況別にみると、「はい」は要支援 2 が 66.7%で最も多く、次いで事業対象者が 37.5%、要支援 1 が 34.2%となっています。一方、「受けていない」では「はい」が 13.5%にとどまっています。なお、統計的には認定状況別で有意な差がみられます。

	要支援１	要支援２	事業対象者	受けていない	わからない
件数(n値)	38	24	8	1052	29
はい	34.2%	66.7%	37.5%	13.5%	20.7%
いいえ	65.8%	33.3%	62.5%	86.5%	79.3%

日常生活圏域別クロス

日常生活圏域別にみると、亀山第 2 が 88.4%と最も外出を控えていない割合が高く、亀山第 1 が 87.1%で続いています。一方、鈴鹿第 8 では 21.5%が「はい」と回答しています。統計的には日常生活圏域別で有意な差はみられません。

	鈴鹿第１	鈴鹿第２	鈴鹿第３	鈴鹿第４	鈴鹿第５	鈴鹿第６	鈴鹿第７	鈴鹿第８	亀山第１	亀山第２
件数(n値)	128	154	106	93	100	95	126	93	132	129
はい	19.5%	16.9%	15.1%	17.2%	16.0%	15.8%	16.7%	21.5%	12.9%	11.6%
いいえ	80.5%	83.1%	84.9%	82.8%	84.0%	84.2%	83.3%	78.5%	87.1%	88.4%

問 14-②　問 14 で「はい」と回答した方にお伺いします。外出を控えている理由は、次のどれですか。（複数選択可）【第 10 期調査 n=196、第 9 期調査 n=445】

「足腰などの痛み」が 47.4%で最も多く、次いで「交通手段がない」が 23.5%、「外での楽しみがない」と「新型コロナウイルスなどの感染症に対する心配」がいずれも 21.9%となっています。一方、「障害（脳卒中の後遺症など）」は 3.1%で最も低い割合となっています。

第 9 期から第 10 期にかけて「足腰などの痛み」は 21.3 ポイント増加しました。外出を控える理由として、身体的な負担や移動手段に関する項目が上位に挙がっています。

	第10期調査	第9期調査
病気	14.8%	9.2%
障害（脳卒中の後遺症など）	3.1%	1.1%
足腰などの痛み	47.4%	26.1%
トイレの心配（失禁など）	15.3%	11.5%
耳の障害（聞こえの問題など）	6.6%	7.4%
目の障害	7.7%	2.9%
外での楽しみがない	21.9%	10.8%
経済的に出られない	10.7%	8.3%
交通手段がない	23.5%	9.2%
新型コロナウイルスなどの感染症に対する心配	21.9%	77.8%
その他	11.7%	4.0%

認定状況別クロス

認定状況別にみると、「足腰などの痛み」はいずれの区分でも多く、要支援 2 が 62.5%、要支援 1 が 53.8%、受けていないが 44.0%となっています。また、「交通手段がない」は要支援 1 が 46.2%、要支援 2 が 43.8%で比較的多くなっています。なお、統計的には認定状況別で有意な差はみられません。件数が少ない区分は、参考値としてみる必要があります。

	要支援１	要支援２	事業対象者	受けていない	わからない
件数(n値)	13	16	3	141	6
病気	7.7%	31.3%	0.0%	14.2%	16.7%
障害（脳卒中の後遺症など）	15.4%	0.0%	0.0%	2.1%	16.7%
足腰などの痛み	53.8%	62.5%	66.7%	44.0%	83.3%
トイレの心配（失禁など）	7.7%	12.5%	0.0%	16.3%	16.7%
耳の障害（聞こえの問題など）	0.0%	6.3%	0.0%	5.7%	16.7%
目の障害	0.0%	6.3%	0.0%	7.1%	0.0%
外での楽しみがない	7.7%	25.0%	33.3%	24.1%	16.7%
経済的に出られない	0.0%	6.3%	33.3%	12.8%	16.7%
交通手段がない	46.2%	43.8%	33.3%	19.1%	16.7%
新型コロナウイルスなどの感染症に対する心配	15.4%	12.5%	66.7%	22.0%	33.3%
その他	7.7%	6.3%	0.0%	12.8%	0.0%

日常生活圏域別クロス

日常生活圏域別にみると、全体として「足腰などの痛み」が最も外出を控える理由として挙げられており、特に鈴鹿第 6 ではその傾向がうかがえます。また、「新型コロナウイルスなどの感染症に対する心配」は亀山第 2 と鈴鹿第 1、「交通手段がない」は鈴鹿第 1 で比較的多くなっています。統計的には日常生活圏域別で有意な差はみられません。

	鈴鹿第１	鈴鹿第２	鈴鹿第３	鈴鹿第４	鈴鹿第５	鈴鹿第６	鈴鹿第７	鈴鹿第８	亀山第１	亀山第２
件数(n値)	25	26	16	16	15	15	21	20	17	15
病気	12.0%	15.4%	12.5%	18.8%	20.0%	13.3%	9.5%	20.0%	5.9%	6.7%
障害（脳卒中の後遺症など）	0.0%	7.7%	6.3%	0.0%	0.0%	6.7%	4.8%	5.0%	0.0%	0.0%
足腰などの痛み	36.0%	42.3%	43.8%	43.8%	53.3%	73.3%	52.4%	35.0%	58.8%	46.7%
トイレの心配（失禁など）	24.0%	7.7%	12.5%	18.8%	13.3%	13.3%	19.0%	5.0%	11.8%	26.7%
耳の障害（聞こえの問題など）	4.0%	0.0%	0.0%	6.3%	13.3%	6.7%	4.8%	5.0%	17.6%	13.3%
目の障害	4.0%	0.0%	6.3%	18.8%	0.0%	6.7%	14.3%	15.0%	11.8%	0.0%
外での楽しみがない	24.0%	19.2%	18.8%	18.8%	20.0%	6.7%	47.6%	25.0%	11.8%	26.7%
経済的に出られない	0.0%	7.7%	6.3%	25.0%	13.3%	6.7%	9.5%	15.0%	23.5%	6.7%
交通手段がない	40.0%	19.2%	31.3%	31.3%	6.7%	13.3%	33.3%	10.0%	17.6%	33.3%
新型コロナウイルスなどの感染症に対する心配	32.0%	23.1%	12.5%	25.0%	20.0%	20.0%	9.5%	25.0%	17.6%	33.3%
その他	12.0%	3.8%	6.3%	6.3%	26.7%	0.0%	9.5%	10.0%	11.8%	26.7%

問 15　外出する際の移動手段は何ですか。（複数選択可）
【第 10 期調査 n=1,228、第 9 期調査 n=1,272】

「自動車（自分で運転）」が 74.3%で最も多く、「徒歩」が 39.2%で続いています。

「自動車（自分で運転）」は第 9 期から第 10 期にかけて 4.6 ポイント増加しました。引き続き外出時の移動手段として、自動車を自ら運転する人が多い状況です。

	第10期調査	第9期調査
徒歩	39.2%	36.2%
自転車	17.8%	20.4%
バイク	4.2%	4.3%
自動車（自分で運転）	74.3%	69.7%
自動車（人に乗せてもらう）	25.7%	26.7%
電車	13.2%	10.5%
路線バス	5.9%	5.3%
病院や施設のバス	0.9%	0.6%
車いす	0.2%	0.1%
電動車いす（カート）	0.2%	0.4%
歩行器・シルバーカー	2.0%	1.5%
福祉タクシー	0.4%	0.4%
その他のタクシー	2.9%	2.4%
その他	0.6%	0.4%

認定状況別クロス

認定状況別にみると、要支援 2 では「自動車（人に乗せてもらう）」、要支援 1 では「歩行器・シルバーカー」の割合が比較的高くなっています。統計的には認定状況別で有意な差がみられます。

	要支援１	要支援２	事業対象者	受けていない	わからない
件数(n値)	38	24	8	1070	30
徒歩	28.9%	25.0%	50.0%	40.7%	36.7%
自転車	18.4%	4.2%	37.5%	18.6%	13.3%
バイク	0.0%	0.0%	0.0%	4.5%	3.3%
自動車（自分で運転）	26.3%	8.3%	62.5%	78.6%	56.7%
自動車（人に乗せてもらう）	52.6%	83.3%	25.0%	23.2%	20.0%
電車	2.6%	0.0%	0.0%	14.6%	13.3%
路線バス	10.5%	8.3%	0.0%	6.1%	3.3%
病院や施設のバス	10.5%	12.5%	12.5%	0.2%	3.3%
車いす	2.6%	0.0%	0.0%	0.2%	0.0%
電動車いす（カート）	5.3%	0.0%	0.0%	0.1%	0.0%
歩行器・シルバーカー	18.4%	4.2%	12.5%	0.8%	6.7%
福祉タクシー	2.6%	4.2%	0.0%	0.3%	0.0%
その他のタクシー	5.3%	12.5%	12.5%	2.4%	6.7%
その他	2.6%	4.2%	0.0%	0.5%	0.0%

日常生活圏域別クロス

日常生活圏域別にみると、亀山第 1 と亀山第 2 では「自動車（自分で運転）」の利用率が比較的高く、鈴鹿第 4 では「電車」の利用が目立ちます。統計的には日常生活圏域別で有意な差がみられます。

	鈴鹿第１	鈴鹿第２	鈴鹿第３	鈴鹿第４	鈴鹿第５	鈴鹿第６	鈴鹿第７	鈴鹿第８	亀山第１	亀山第２
件数(n値)	131	157	108	93	102	99	127	94	132	131
徒歩	31.3%	47.1%	46.3%	45.2%	42.2%	34.3%	47.2%	39.4%	36.4%	34.4%
自転車	14.5%	18.5%	24.1%	29.0%	22.5%	15.2%	26.0%	17.0%	6.1%	13.0%
バイク	0.8%	8.3%	3.7%	4.3%	2.9%	6.1%	3.1%	3.2%	5.3%	3.1%
自動車（自分で運転）	76.3%	67.5%	69.4%	64.5%	77.5%	75.8%	71.7%	79.8%	80.3%	81.7%
自動車（人に乗せてもらう）	23.7%	27.4%	20.4%	24.7%	23.5%	27.3%	30.7%	29.8%	28.8%	20.6%
電車	3.8%	12.7%	22.2%	35.5%	9.8%	4.0%	23.6%	10.6%	5.3%	12.2%
路線バス	4.6%	7.0%	2.8%	3.2%	4.9%	4.0%	15.0%	6.4%	6.1%	3.8%
病院や施設のバス	1.5%	0.6%	0.0%	2.2%	0.0%	1.0%	1.6%	1.1%	0.0%	0.8%
車いす	0.0%	0.0%	0.9%	0.0%	0.0%	1.0%	0.0%	1.1%	0.0%	0.0%
電動車いす（カート）	0.8%	0.6%	0.9%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
歩行器・シルバーカー	3.1%	1.9%	1.9%	1.1%	1.0%	2.0%	1.6%	2.1%	1.5%	2.3%
福祉タクシー	1.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.0%	0.0%	0.0%	0.8%	0.8%
その他のタクシー	0.8%	3.2%	3.7%	2.2%	3.9%	1.0%	5.5%	0.0%	2.3%	6.1%
その他	1.5%	0.6%	2.8%	1.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

3 食べることについて

問 16　BMI【第 10 期調査 n=1,199、第 9 期調査 n=1,236】

「ふつう（18.5 以上 25 未満）」が 70.6%で最も多く、「肥満 1 度（25 以上 30 未満）」が 19.0%で続いています。最も少ないのは「肥満 3 度（35 以上 40 未満）」と「肥満 4 度（40 以上）」でいずれも 0.2%です。

「ふつう（18.5 以上 25 未満）」は第 9 期から第 10 期にかけて 1.3 ポイント増加しました。「ふつう（18.5 以上 25 未満）」が 7 割を占める一方、やせや高度肥満に該当する人も一定数みられます。

	第10期調査	第9期調査
やせ（18.5未満）	7.9%	9.2%
ふつう（18.5以上25未満）	70.6%	69.3%
肥満１度（25以上30未満）	19.0%	19.8%
肥満２度（30以上3やせ（18.5未満）	2.1%	1.5%
肥満３度（35以上40未満）	0.2%	0.2%
肥満４度（40以上）	0.2%	0.0%

問 17　半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか。（1 つを選択）【第 10 期調査 n=1,225、第 9 期調査 n=1,264】

「いいえ」が 69.1%、「はい」が 30.9%となっており、「いいえ」が多数を占めています。

第 9 期から第 10 期にかけて「はい」は 2.2 ポイント減少しましたが、引き続き 3 割程度を占めています。

	第10期調査	第9期調査
はい	30.9%	33.1%
いいえ	69.1%	66.9%

問 18　お茶や汁物等でむせることがありますか。（1 つを選択）
【第 10 期調査 n=1,225、第 9 期調査 n=1,270】

「いいえ」が 72.7%、「はい」が 27.3%となっており、「いいえ」が多数を占めています。

第 9 期から第 10 期にかけて大きな変化はみられません。「はい」も 3 割近くみられます。

	第10期調査	第9期調査
はい	27.3%	26.7%
いいえ	72.7%	73.3%

問 19　口の渇きが気になりますか。（1 つを選択）
【第 10 期調査 n=1,215、第 9 期調査 n=1,264】

「いいえ」が 72.3%、「はい」が 27.7%となっており、「いいえ」が多数を占めています。

第 9 期から第 10 期にかけて「いいえ」は 1.3 ポイント増加しましたが、「はい」と回答した人も 3 割近くみられます。

	第10期調査	第9期調査
はい	27.7%	29.0%
いいえ	72.3%	71.0%

問 20　歯磨き（人にやってもらう場合も含む）を毎日していますか。
（1 つを選択）【第 10 期調査 n=1,220、第 9 期調査 n=1,265】

「はい」が 92.2%、「いいえ」が 7.8%となっており、「はい」が多数を占めています。

第 9 期から第 10 期にかけて大きな変化はみられません。毎日歯磨きをしている人の割合は高い水準にあります。

	第10期調査	第9期調査
はい	92.2%	92.4%
いいえ	7.8%	7.6%

問 21　歯の数と入れ歯の利用状況をお教えください。（成人の歯の総本数は、親知らずを含めて 32 本です）（1 つを選択）
【第 10 期調査 n=1,196、第 9 期調査 n=1,234】

「自分の歯は 20 本以上、入れ歯の利用なし」が 37.0%で最も多く、「自分の歯は 19 本以下、かつ入れ歯を利用」が 33.7%で続いています。最も少ないのは「自分の歯は 19 本以下、入れ歯の利用なし」で 11.1%です。

第 9 期から第 10 期にかけて「自分の歯は 20 本以上、入れ歯の利用なし」は 0.7 ポイント増加しました。自分の歯を 20 本以上保っている人が一定数みられる一方で、入れ歯を利用している人も少なくありません。

	第10期調査	第9期調査
自分の歯は20本以上、かつ入れ歯を利用	18.2%	17.2%
自分の歯は20本以上、入れ歯の利用なし	37.0%	36.3%
自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用	33.7%	35.7%
自分の歯は19本以下、入れ歯の利用なし	11.1%	10.9%

問 22　どなたかと食事をともにする機会はありますか。（1 つを選択）
【第 10 期調査 n=1,222、第 9 期調査 n=1,271】

「毎日ある」が 66.3%で最も多く、「月に何度かある」が 13.3%で続いています。最も少ないのは「ほとんどない」で 6.6%です。

第 9 期から第 10 期にかけて「毎日ある」は 2.9 ポイント増加しました。誰かと食事をともにする機会が日常的にある人の割合は増えています。

	第10期調査	第9期調査
毎日ある	66.3%	63.4%
週に何度かある	6.9%	4.1%
月に何度かある	13.3%	11.7%
年に何度かある	7.0%	9.0%
ほとんどない	6.6%	11.7%

4 毎日の生活について

問 23　物忘れが多いと感じますか。（1 つを選択）
【第 10 期調査 n=1,202、第 9 期調査 n=1,261】

「いいえ」が 53.6%、「はい」が 46.4%となっています。

第 9 期から第 10 期にかけて割合に変化はみられず、同じ水準で推移しています。物忘れが多いと感じる人も一定数みられます。

	第10期調査	第9期調査
はい	46.4%	46.4%
いいえ	53.6%	53.6%

問 24　バスや電車を使って 1 人で外出していますか。（自家用車でも可）（1 つを選択）【第 10 期調査 n=1,224、第 9 期調査 n=1,267】

「できるし、している」が 71.2%で最も多く、「できるけどしていない」が 20.7%で続いています。最も少ないのは「できない」で 8.2%です。

第 9 期から第 10 期にかけて大きな変化はみられません。多くの人が 1 人で外出できている一方で、「できるけどしていない」人や「できない」人も一定数みられます。

	第10期調査	第9期調査
できるし、している	71.2%	71.3%
できるけどしていない	20.7%	21.9%
できない	8.2%	6.8%

問 25　自分で食品・日用品の買物をしていますか。（1 つを選択）
【第 10 期調査 n=1,226、第 9 期調査 n=1,257】

「できるし、している」が 82.8%で最も多く、「できるけどしていない」が 13.7%で続いています。最も少ないのは「できない」で 3.5%です。

第 9 期から第 10 期にかけて「できるし、している」は 2.2 ポイント増加しました。自分で食品・日用品の買物をしている人が 8 割を超えています。

	第10期調査	第9期調査
できるし、している	82.8%	80.6%
できるけどしていない	13.7%	16.0%
できない	3.5%	3.4%

問 26　自分で食事の用意をしていますか。（1 つを選択）
【第 10 期調査 n=1,226、第 9 期調査 n=1,262】

「できるし、している」が 69.2%で最も多く、「できるけどしていない」が 21.9%で続いています。最も少ないのは「できない」で 8.8%です。

第 9 期から第 10 期にかけて大きな変化はみられません。「できるし、している」が 7 割近くを占めています。

	第10期調査	第9期調査
できるし、している	69.2%	68.9%
できるけどしていない	21.9%	22.0%
できない	8.8%	9.0%

問 27　自分で請求書の支払いをしていますか。（1 つを選択）
【第 10 期調査 n=1,225、第 9 期調査 n=1,254】

「できるし、している」が 82.0%で最も多く、「できるけどしていない」が 14.4%で続いています。最も少ないのは「できない」で 3.7%です。

第 9 期から第 10 期にかけて大きな変化はみられません。「できるけどしていない」も 1 割台半ばみられます。

	第10期調査	第9期調査
できるし、している	82.0%	82.0%
できるけどしていない	14.4%	14.5%
できない	3.7%	3.5%

問 28　自分で預貯金の出し入れをしていますか。（1 つを選択）
【第 10 期調査 n=1,226、第 9 期調査 n=1,262】

「できるし、している」が 83.4%で最も多く、「できるけどしていない」が 12.7%で続いています。最も少ないのは「できない」で 3.9%です。

第 9 期から第 10 期にかけて「できるし、している」は 1.1 ポイント増加しました。「できるけどしていない」人や「できない」人も一定数みられます。

	第10期調査	第9期調査
できるし、している	83.4%	82.3%
できるけどしていない	12.7%	13.8%
できない	3.9%	3.9%

問 29　役所や病院などに出す書類（年金などの書類）が書けますか。
（1 つを選択）【第 10 期調査 n=1,226、第 9 期調査 n=1,262】

「はい」が 92.3%、「いいえ」が 7.7%となっており、「はい」が多数を占めています。

第 9 期から第 10 期にかけて大きな変化はみられないものの、「はい」は 0.7 ポイント減少しています。引き続き高い水準を維持している一方で、書類の記入に困難を感じる人も一定数みられます。

	第10期調査	第9期調査
はい	92.3%	93.0%
いいえ	7.7%	7.0%

問 30　新聞を読んでいますか。（1 つを選択）
【第 10 期調査 n=1,228、第 9 期調査 n=1,262】

「はい」が 72.6%、「いいえ」が 27.4%となっており、「はい」が多数を占めています。

第 9 期から第 10 期にかけて「はい」は 9.9 ポイント減少しました。新聞を読んでいる人の割合は依然として高いものの、前回調査から減少しています。

	第10期調査	第9期調査
はい	72.6%	82.5%
いいえ	27.4%	17.5%

問 31　健康についての記事や番組に関心がありますか。（1 つを選択）
【第 10 期調査 n=1,217、第 9 期調査 n=1,255】

「はい」が 90.9%、「いいえ」が 9.1%となっており、「はい」が多数を占めています。

第 9 期から第 10 期にかけて「はい」は 1.3 ポイント減少しました。健康に関する情報への関心は引き続き高い水準にあります。

	第10期調査	第9期調査
はい	90.9%	92.2%
いいえ	9.1%	7.8%

問 32　ご自分の耳はよく聞こえると感じますか。（1 つを選択）
【第 10 期調査 n=1,227、第 9 期調査 n=1,260】

「よく聞こえる」が 46.6%で最も多く、「やや聞こえにくいが、特に困るほどではない」が 39.9%で続いています。最も少ないのは「聞こえにくいが、何もしていない」で 6.2%です。

第 9 期から第 10 期にかけて「よく聞こえる」は 0.9 ポイント減少しています。一方で、「聞こえにくいため、補聴器を付けている」は増加しており、聞こえに関する課題を抱える人も一定数みられます。

	第10期調査	第9期調査
よく聞こえる	46.6%	47.5%
やや聞こえにくいが、特に困るほどではない	39.9%	41.7%
聞こえにくいため、補聴器を付けている	7.3%	5.2%
聞こえにくいが、何もしていない	6.2%	5.6%

問 32-②　問 32 で「聞こえにくいが、何もしていない」と回答した方にお伺いします。聞こえにくいにもかかわらず、何もしていないのはなぜですか。（1 つを選択）【第 10 期調査 n=70、第 9 期調査 n=66】

「日常生活に不便を感じないから」が 51.4%で最も多く、「補聴器を付けるのがわずらわしいから」と「補聴器が高価だから」がいずれも 21.4%で続いています。最も少ないのは「どこに相談すればよいかわからないから」で 1.4%です。

第 9 期から第 10 期にかけて「日常生活に不便を感じないから」は 2.9 ポイント増加しました。聞こえにくさを感じながらも、日常生活に大きな支障を感じていない人が多いことがうかがえます。

	第10期調査	第9期調査
日常生活に不便を感じないから	51.4%	48.5%
補聴器を付けるのがわずらわしいから	21.4%	18.2%
補聴器が高価だから	21.4%	19.7%
どこに相談すればよいかわからないから	1.4%	7.6%
その他	4.3%	6.1%

問 33　趣味はありますか。（1 つを選択）【第 10 期調査 n=1,187、第 9 期調査 n=1,191】

「趣味あり」が 71.7%、「思いつかない」が 28.3%となっています。

第 9 期から第 10 期にかけて「趣味あり」が 2.2 ポイント増加しました。「趣味あり」の割合は 7 割を超えています。

	第10期調査	第9期調査
趣味あり	71.7%	69.5%
思いつかない	28.3%	30.5%

問 34　生きがいはありますか。（1 つを選択）
【第 10 期調査 n=1,161、第 9 期調査 n=1,194】

「生きがいあり」が 58.1%、「思いつかない」が 41.9%となっています。

第 9 期から第 10 期にかけて「生きがいあり」が 3.4 ポイント増加しました。「生きがいあり」が過半数を占めています。

	第10期調査	第9期調査
生きがいあり	58.1%	54.7%
思いつかない	41.9%	45.3%

問 35　自分の健康や生きがいのために、どのようなことをしたいと思いますか。（2 つまで選択可）【第 10 期調査 n=1,186】

「趣味やスポーツを楽しみたい」が 45.4%で最も多く、「家族との時間を大切にしたい」が 40.5%で続いています。最も少ないのは「若い世代と交流がしたい」で 3.0%です。

健康や生きがいに関する意向は、趣味・スポーツや家族との時間など、日常生活の充実に関わる内容に多く集まっています。

	第10期調査
ボランティア活動や地域活動に参加したい	10.2%
趣味やスポーツを楽しみたい	45.4%
勉強や教養を身につけたい	10.5%
家族との時間を大切にしたい	40.5%
若い世代と交流がしたい	3.0%
仕事を少しでも長く続けたい	18.5%
その他	3.7%
特にない	15.6%

性・年齢別クロス

性・年齢別にみると、「家族との時間を大切にしたい」は女性 85 歳以上が 53.8%で最も多く、次いで女性 65～74 歳が 43.4%、男性 75～84 歳が 40.7%となっています。一方、「趣味やスポーツを楽しみたい」は男性 65～74 歳が 55.6%で最も多く、「仕事を少しでも長く続けたい」も男性 65～74 歳が 29.5%で比較的多くなっています。なお、統計的には性・年齢別で有意な差がみられます。

	男性65～74歳	男性75～84歳	男性85歳以上	女性65～74歳	女性75～84歳	女性85歳以上
件数(n値)	275	226	36	274	266	65
ボランティア活動や地域活動に参加したい	8.0%	9.3%	11.1%	9.9%	15.0%	4.6%
趣味やスポーツを楽しみたい	55.6%	42.5%	44.4%	47.8%	40.6%	29.2%
勉強や教養を身につけたい	8.4%	10.6%	5.6%	13.5%	12.4%	6.2%
家族との時間を大切にしたい	39.3%	40.7%	30.6%	43.4%	37.6%	53.8%
若い世代と交流がしたい	2.5%	3.1%	2.8%	4.0%	3.4%	0.0%
仕事を少しでも長く続けたい	29.5%	15.0%	13.9%	21.2%	12.0%	3.1%
その他	1.5%	4.9%	2.8%	2.9%	4.9%	4.6%
特にない	13.1%	19.0%	27.8%	10.2%	14.3%	24.6%

問 36　将来に向けて不安に思うことはありますか。（3 つまで選択可）
【第 10 期調査 n=1,201、第 9 期調査 n=1,224】

「健康を維持できるかどうか」が 73.9%で最も多く、「経済的にやっていけるかどうか」が 25.7%で続いています。最も少ないのは「その他」で 1.3%です。

「健康を維持できるかどうか」は第 9 期から第 10 期にかけて 3.6 ポイント減少しましたが、引き続き最も高い割合を占めています。

	第10期調査	第9期調査
親しい友人・知人がいるかどうか	12.2%	10.9%
住み慣れた地域で暮らしていけるかどうか	12.5%	12.1%
趣味や生きがいがもてるかどうか	10.2%	10.3%
健康を維持できるかどうか	73.9%	77.5%
日常の介護者がいるかどうか	7.7%	8.1%
一緒に暮らす家族がいるかどうか	13.3%	14.4%
住まいが確保できるかどうか	2.3%	2.0%
希望する介護施設に入れるかどうか	15.7%	15.0%
経済的にやっていけるかどうか	25.7%	26.9%
災害や病気・事故などの緊急時に、すぐに助けがきてくれるかどうか	15.8%	14.4%
その他	1.3%	2.0%
特にない	11.7%	10.1%

性・年齢別クロス

性・年齢別にみると、「経済的にやっていけるかどうか」は男性 65～74 歳で 34.4%と最も多くなっています。統計的には性・年齢別で有意な差がみられます。

	男性65～74歳	男性75～84歳	男性85歳以上	女性65～74歳	女性75～84歳	女性85歳以上
件数(n値)	279	230	37	275	268	67
親しい友人・知人がいるかどうか	12.5%	12.6%	29.7%	8.0%	14.6%	11.9%
住み慣れた地域で暮らしていけるかどうか	8.6%	16.1%	16.2%	9.8%	16.4%	13.4%
趣味や生きがいがもてるかどうか	14.0%	9.6%	21.6%	7.6%	8.2%	6.0%
健康を維持できるかどうか	78.5%	70.0%	70.3%	75.6%	75.4%	67.2%
日常の介護者がいるかどうか	8.6%	10.0%	8.1%	4.7%	7.5%	11.9%
一緒に暮らす家族がいるかどうか	16.5%	19.6%	21.6%	8.7%	9.3%	10.4%
住まいが確保できるかどうか	4.3%	1.7%	2.7%	3.3%	0.0%	0.0%
希望する介護施設に入れるかどうか	11.1%	14.8%	35.1%	16.7%	16.4%	26.9%
経済的にやっていけるかどうか	34.4%	20.4%	13.5%	28.7%	24.3%	11.9%
災害や病気・事故などの緊急時に、すぐに助けがきてくれるかどうか	10.0%	18.3%	13.5%	16.4%	17.5%	22.4%
その他	1.4%	0.9%	2.7%	1.8%	1.1%	0.0%
特にない	9.0%	13.5%	2.7%	12.4%	11.2%	11.9%

世帯類型別クロス

世帯類型別にみると、１人暮らしでは「災害や病気・事故などの緊急時に、すぐに助けがきてくれるかどうか」を不安視する割合が比較的高くなっています。統計的には世帯類型別で有意な差がみられます。

	１人暮らし	夫婦２人暮らし（配偶者65歳以上）	夫婦２人暮らし（配偶者64歳以下）	息子・娘との２世帯	その他
件数(n値)	197	523	59	224	163
親しい友人・知人がいるかどうか	12.7%	11.1%	16.9%	13.8%	10.4%
住み慣れた地域で暮らしていけるかどうか	18.8%	13.4%	6.8%	6.7%	11.7%
趣味や生きがいがもてるかどうか	10.7%	9.0%	15.3%	12.5%	8.0%
健康を維持できるかどうか	72.6%	75.3%	79.7%	73.7%	73.0%
日常の介護者がいるかどうか	7.6%	7.6%	6.8%	8.0%	9.2%
一緒に暮らす家族がいるかどうか	3.6%	19.7%	16.9%	8.9%	9.8%
住まいが確保できるかどうか	2.0%	3.3%	5.1%	0.0%	1.8%
希望する介護施設に入れるかどうか	23.4%	13.8%	11.9%	14.7%	15.3%
経済的にやっていけるかどうか	28.9%	22.4%	35.6%	28.6%	23.3%
災害や病気・事故などの緊急時に、すぐに助けがきてくれるかどうか	24.4%	15.1%	10.2%	11.2%	14.7%
その他	1.5%	1.3%	1.7%	0.9%	1.8%
特にない	8.1%	11.7%	11.9%	13.8%	14.1%

認定状況別クロス

認定状況別にみると、認定を受けている群では「日常の介護者がいるかどうか」、認定を受けていない群では「経済的にやっていけるかどうか」の割合が比較的高くなっています。統計的には認定状況別で有意な差がみられます。

	要支援１	要支援２	事業対象者	受けていない	わからない
件数(n値)	38	23	8	1044	30
親しい友人・知人がいるかどうか	5.3%	13.0%	12.5%	12.0%	23.3%
住み慣れた地域で暮らしていけるかどうか	26.3%	13.0%	12.5%	12.1%	3.3%
趣味や生きがいがもてるかどうか	10.5%	4.3%	25.0%	9.8%	10.0%
健康を維持できるかどうか	63.2%	65.2%	87.5%	75.3%	60.0%
日常の介護者がいるかどうか	21.1%	8.7%	0.0%	7.1%	16.7%
一緒に暮らす家族がいるかどうか	10.5%	13.0%	25.0%	13.1%	23.3%
住まいが確保できるかどうか	0.0%	4.3%	0.0%	2.3%	0.0%
希望する介護施設に入れるかどうか	26.3%	26.1%	25.0%	15.0%	16.7%
経済的にやっていけるかどうか	15.8%	26.1%	12.5%	26.8%	23.3%
災害や病気・事故などの緊急時に、すぐに助けがきてくれるかどうか	28.9%	30.4%	25.0%	14.7%	13.3%
その他	0.0%	8.7%	0.0%	1.3%	0.0%
特にない	7.9%	0.0%	12.5%	11.9%	10.0%

5 地域での活動について

問 37　以下のような会・グループ等にどのくらいの頻度で参加していますか。※①～⑧それぞれ 1 つを選択

問 37-①　ボランティアのグループ【第 10 期調査 n=799、第 9 期調査 n=782】

「参加していない」が 84.5%で最も多く、「月 1～3 回」が 6.3%で続いています。最も少ないのは「週 1 回」で 0.6%です。

第 9 期から第 10 期にかけて「参加していない」が 2.0 ポイント増加しました。引き続き「参加していない」が 8 割台半ばを占めています。

	第10期調査	第9期調査
週４回以上	0.8%	1.4%
週２～３回	1.8%	1.7%
週１回	0.6%	1.9%
月１～３回	6.3%	6.8%
年に数回	6.1%	5.8%
参加していない	84.5%	82.5%

問 37-②　スポーツ関係のグループやクラブ
【第 10 期調査 n=856、第 9 期調査 n=834】

「参加していない」が 69.9%で最も多く、「週 2～3 回」が 9.8%で続いています。最も少ないのは「年に数回」で 2.3%です。

第 9 期から第 10 期にかけて「参加していない」が 1.0 ポイント増加しました。「参加していない」が約 7 割を占めています。

	第10期調査	第9期調査
週４回以上	4.9%	6.0%
週２～３回	9.8%	8.2%
週１回	6.2%	4.3%
月１～３回	6.9%	9.2%
年に数回	2.3%	3.4%
参加していない	69.9%	68.9%

問 37-③　趣味関係のグループ【第 10 期調査 n=863、第 9 期調査 n=846】

「参加していない」が 64.4%で最も多く、「月 1～3 回」が 16.0%で続いています。最も少ないのは「週 4 回以上」で 1.6%です。

第 9 期から第 10 期にかけて「参加していない」は 2.9 ポイント増加しました。「参加していない」が 6 割台半ばを占めています。

	第10期調査	第9期調査
週４回以上	1.6%	1.8%
週２～３回	5.9%	5.2%
週１回	4.8%	5.6%
月１～３回	16.0%	17.4%
年に数回	7.3%	8.6%
参加していない	64.4%	61.5%

問 37-④　学習・教養サークル【第 10 期調査 n=787、第 9 期調査 n=757】

「参加していない」が 86.9%で最も多く、「月 1～3 回」が 6.0%で続いています。最も少ないのは「週 4 回以上」で 0.1%です。

「参加していない」は第 9 期から第 10 期にかけて 2.0 ポイント減少しましたが、引き続き 8 割台半ばを占めています。

	第10期調査	第9期調査
週４回以上	0.1%	0.1%
週２～３回	1.1%	1.2%
週１回	1.3%	1.5%
月１～３回	6.0%	4.2%
年に数回	4.6%	4.1%
参加していない	86.9%	88.9%

問 37-⑤　介護予防のための通いの場 ※介護サービス提供事業所や公民館、鈴鹿市保健センター・亀山市総合福祉保健センター（あいあい）などで実施する介護予防教室、及びふれあいいきいきサロンなど【第 10 期調査 n=801、第 9 期調査 n=778】

「参加していない」が 89.9%で最も多く、「月 1～3 回」が 3.7%で続いています。最も少ないのは「週 4 回以上」で 0.6%です。

第 9 期から第 10 期にかけて「参加していない」は 0.5 ポイント減少しましたが、引き続き約 9 割を占めています。

	第10期調査	第9期調査
週４回以上	0.6%	0.3%
週２～３回	1.4%	0.4%
週１回	1.5%	1.7%
月１～３回	3.7%	4.6%
年に数回	2.9%	2.7%
参加していない	89.9%	90.4%

問 37-⑥　老人クラブ【第 10 期調査 n=808、第 9 期調査 n=795】

「参加していない」が 88.6%で最も多く、「年に数回」が 7.4%で続いています。最も少ないのは「週 4 回以上」で 0.2%です。

第 9 期から第 10 期にかけて「参加していない」が 3.2 ポイント増加しました。引き続き「参加していない」が約 9 割を占めています。

	第10期調査	第9期調査
週４回以上	0.2%	0.5%
週２～３回	0.5%	0.9%
週１回	0.4%	0.4%
月１～３回	2.8%	4.2%
年に数回	7.4%	8.7%
参加していない	88.6%	85.4%

問 37-⑦　町内会・自治会 ※まちづくり協議会、地域づくり協議会を含む【第 10 期調査 n=844、第 9 期調査 n=808】

「参加していない」が 59.7%で最も多く、「年に数回」が 30.9%で続いています。最も少ないのは「週 2～3 回」で 0.4%です。

「参加していない」は第 9 期から第 10 期にかけて 0.8 ポイント減少しましたが、引き続き最も高い割合を占めています。

	第10期調査	第9期調査
週４回以上	0.5%	0.5%
週２～３回	0.4%	1.1%
週１回	1.3%	1.1%
月１～３回	7.2%	8.4%
年に数回	30.9%	28.3%
参加していない	59.7%	60.5%

問 37-⑧　収入のある仕事【第 10 期調査 n=844、第 9 期調査 n=821】

「参加していない」が 64.5%で最も多く、「週 4 回以上」が 18.5%で続いています。最も少ないのは「週 1 回」で 1.3%です。

第 9 期から第 10 期にかけて「参加していない」は 2.2 ポイント減少しました。収入のある仕事をしていない人が 6 割強を占める一方、週 4 回以上の就労が一定数いることがわかります。

	第10期調査	第9期調査
週４回以上	18.5%	17.1%
週２～３回	9.8%	9.9%
週１回	1.3%	1.5%
月１～３回	3.3%	2.7%
年に数回	2.6%	2.2%
参加していない	64.5%	66.7%

問 38　地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加者として参加してみたいと思いますか。（1 つを選択）
【第 10 期調査 n=1,117、第 9 期調査 n=1,130】

「参加してもよい」が 50.1%で最も多く、「参加したくない」が 36.7%で続いています。最も少ないのは「すでに参加している」で 5.3%です。

第 9 期から第 10 期にかけて「参加してもよい」は 0.9 ポイント増加しました。参加に前向きな人が半数を占める一方、「参加したくない」も 3 割台後半みられます。

	第10期調査	第9期調査
ぜひ参加したい	7.9%	8.0%
参加してもよい	50.1%	49.2%
参加したくない	36.7%	36.5%
すでに参加している	5.3%	6.3%

性・年齢別クロス

性・年齢別にみると、「ぜひ参加したい」は女性 75～84 歳が 14.8%で最も多く、次いで男性 85 歳以上が 11.8%、女性 85 歳以上が 10.5%となっています。一方、「参加したくない」は女性 85 歳以上が 49.1%で最も多く、次いで男性 75～84 歳が 43.7%となっています。なお、統計的には性・年齢別で有意な差がみられます。

	男性65～74歳	男性75～84歳	男性85歳以上	女性65～74歳	女性75～84歳	女性85歳以上
件数(n値)	269	222	34	265	229	57
ぜひ参加したい	7.1%	5.0%	11.8%	4.2%	14.8%	10.5%
参加してもよい	50.6%	46.4%	44.1%	60.8%	48.0%	31.6%
参加したくない	37.9%	43.7%	35.3%	29.8%	32.3%	49.1%
すでに参加している	4.5%	5.0%	8.8%	5.3%	4.8%	8.8%

世帯類型別クロス

世帯類型別にみると、1 人暮らしでは「ぜひ参加したい」が 13.7%と他の世帯類型より比較的多く、その他では「参加したくない」が 41.4%と多くなっています。統計的には世帯類型別で有意な差はみられません。

	１人暮らし	夫婦２人暮らし（配偶者65歳以上）	夫婦２人暮らし（配偶者64歳以下）	息子・娘との２世帯	その他
件数(n値)	175	495	56	208	152
ぜひ参加したい	13.7%	6.3%	7.1%	6.3%	8.6%
参加してもよい	45.7%	53.3%	50.0%	51.4%	45.4%
参加したくない	34.3%	36.0%	33.9%	36.5%	41.4%
すでに参加している	6.3%	4.4%	8.9%	5.8%	4.6%

認定状況別クロス

認定状況別にみると、要支援 2 では 78.9%が「参加したくない」と回答しており、事業対象者では 25.0%が「すでに参加している」となっています。統計的には認定状況別で有意な差がみられます。

	要支援１	要支援２	事業対象者	受けていない	わからない
件数(n値)	34	19	8	983	25
ぜひ参加したい	11.8%	5.3%	25.0%	7.7%	4.0%
参加してもよい	38.2%	15.8%	37.5%	52.0%	36.0%
参加したくない	41.2%	78.9%	12.5%	35.2%	56.0%
すでに参加している	8.8%	0.0%	25.0%	5.1%	4.0%

問 38-②　問 38 で「参加したくない」と回答した方にお伺いします。どうすれば参加したいと思いますか。（1 つを選択）【第 10 期調査 n=356、第 9 期調査 n=338】

「その他」が 40.2%で最も多く、「加入するとやめられないなど、閉鎖的な雰囲気をなくす」が 16.3%、「活動内容を魅力あるものにする」が 16.0%で続いています。最も少ないのは「いろいろな住民組織が連携して、一緒の活動をする」で 1.4%です。

第 9 期から第 10 期にかけて「その他」は 4.5 ポイント減少したものの、引き続き最も高い割合を占めています。また、「加入するとやめられないなど、閉鎖的な雰囲気をなくす」や「活動内容を魅力あるものにする」も一定割合みられます。

	第10期調査	第9期調査
活動の曜日や時間を参加しやすいように設定する	7.3%	9.5%
インターネット上の参加など、多様な参加方法を用意する	5.6%	4.1%
加入するとやめられないなど、閉鎖的な雰囲気をなくす	16.3%	14.5%
活動内容を魅力あるものにする	16.0%	14.2%
成果や貢献が具体的にみえる活動をする	2.0%	2.1%
活動内容や役割を選べるようにする	2.0%	2.4%
いろいろな住民組織が連携して、一緒の活動をする	1.4%	1.2%
参加した人が、何らかのメリットを得られるようにする	9.3%	7.4%
その他	40.2%	44.7%

問 39　地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に企画・運営（お世話役）として参加してみたいと思いますか。（1 つを選択）
【第 10 期調査 n=1,147、第 9 期調査 n=1,151】

「参加したくない」が 54.1%で最も多く、「参加してもよい」が 37.5%で続いています。最も少ないのは「ぜひ参加したい」で 3.2%です。

第 9 期から第 10 期にかけて「参加したくない」は 1.0 ポイント増加しました。引き続き、「参加したくない」が過半数を占めています。

	第10期調査	第9期調査
ぜひ参加したい	3.2%	2.5%
参加してもよい	37.5%	39.4%
参加したくない	54.1%	53.1%
すでに参加している	5.2%	5.0%

認定状況別クロス

認定状況別にみると、要支援 2 では 84.2%が「参加したくない」と回答しました。一方で、事業対象者では 50.0%が「参加してもよい」と回答しています。統計的には認定状況別で有意な差がみられます。

	要支援１	要支援２	事業対象者	受けていない	わからない
件数(n値)	34	19	8	1008	26
ぜひ参加したい	8.8%	5.3%	0.0%	3.1%	7.7%
参加してもよい	23.5%	10.5%	50.0%	38.3%	23.1%
参加したくない	64.7%	84.2%	37.5%	53.1%	69.2%
すでに参加している	2.9%	0.0%	12.5%	5.6%	0.0%

6 就労について

問 40　現在のあなたの就労状態はどれですか。（複数選択可）
【第 10 期調査 n=1,161】

「引退した」が 57.7%で最も多く、「非常勤（パート・アルバイト等）」が 18.1%で続いています。最も少ないのは「求職中」で 0.6%です。

引退した人が過半数を占める一方で、何らかの形で就労を続けている人もみられます。

	第10期調査
職に就いたことがない	8.1%
引退した	57.7%
常勤（フルタイム）	4.4%
非常勤（パート・アルバイト等）	18.1%
自営業	10.0%
求職中	0.6%
その他	5.7%

問 40-②　問 40 で「引退した」と回答した方にお伺いします。あなたはいつ引退しましたか。【第 10 期調査 n=593】

「2020～2024 年（令和 2～6 年）」が 25.5%で最も多く、「2005～2009 年（平成 17 年～21 年）」が 17.4%で続いています。次いで「2015～2019 年（平成 27～令和元年）」が 15.2%、「2010～2014 年（平成 22～26 年）」が 15.0%となっています。2005 年以降に引退した人が約 7 割を占めており、近年引退した層が中心となっています。

	第10期調査
1940～1949年（昭和15～24年）	0.2%
1950～1954年（昭和25～29年）	0.2%
1955～1959年（昭和30～34年）	0.2%
1960～1964年（昭和35～39年）	0.2%
1965～1969年（昭和40～44年）	0.2%
1970～1974年（昭和45～49年）	0.5%
1975～1979年（昭和50～54年）	1.0%
1980～1984年（昭和55～59年）	1.2%
1985～1989年（昭和60年～平成元年）	0.8%
1990～1994年（平成2～6年）	2.5%
1995～1999年（平成7～11年）	4.9%
2000～2004年（平成12～16年）	10.6%
2005～2009年（平成17～21年）	17.4%
2010～2014年（平成22～26年）	15.0%
2015～2019年（平成27年～令和元年）	15.2%
2020～2024年（令和2～6年）	25.5%
2025年（令和7年）	4.6%

7 あなたとまわりの人の「たすけあい」について

問 41　あなたの心配事や愚痴（ぐち）を聞いてくれる人を教えてください。（複数選択可）【第 10 期調査 n=1,216、第 9 期調査 n=1,245】

「配偶者」が 59.8%で最も多く、「友人」が 45.2%、「別居の子ども」が 35.9%で続いています。

第 9 期から第 10 期にかけて「配偶者」や「友人」の割合は増加しており、身近な人間関係が相談先として重要な役割を果たしていることがうかがえます。

	第10期調査	第9期調査
配偶者	59.8%	58.2%
同居の子ども	17.5%	18.6%
別居の子ども	35.9%	34.8%
兄弟姉妹・親戚・親・孫	26.6%	24.7%
近隣	12.0%	13.1%
友人	45.2%	40.9%
その他	2.5%	2.1%
そのような人はいない	3.7%	4.4%

問 42　反対に、あなたが心配事や愚痴（ぐち）を聞いてあげる人を教えてください。（複数選択可）【第 10 期調査 n=1,206、第 9 期調査 n=1,231】

「配偶者」が 57.7%で最も多く、「友人」が 47.3%、「別居の子ども」が 34.0%で続いています。

第 9 期から第 10 期にかけて「配偶者」や「友人」の割合は増加しており、身近な人間関係の中で支え合いが行われている状況がうかがえます。

	第10期調査	第9期調査
配偶者	57.7%	56.7%
同居の子ども	16.1%	16.3%
別居の子ども	34.0%	32.6%
兄弟姉妹・親戚・親・孫	29.3%	27.9%
近隣	15.3%	15.4%
友人	47.3%	41.3%
その他	1.9%	1.5%
そのような人はいない	6.0%	6.4%

問 43　あなたが病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人を教えてください。（複数選択可）【第 10 期調査 n=1,220、第 9 期調査 n=1,250】

「配偶者」が 66.9%で最も多く、「別居の子ども」が 32.6%で続いています。

「配偶者」は 1.9 ポイント増加しています。看病や世話の担い手は配偶者を中心としていることがうかがえます。

	第10期調査	第9期調査
配偶者	66.9%	65.0%
同居の子ども	23.9%	25.7%
別居の子ども	32.6%	33.0%
兄弟姉妹・親戚・親・孫	10.2%	10.0%
近隣	1.3%	2.2%
友人	4.3%	3.7%
その他	1.3%	2.2%
そのような人はいない	4.6%	5.4%

問 44　反対に、看病や世話をしてあげる人を教えてください。（複数選択可）
【第 10 期調査 n=1,194、第 9 期調査 n=1,224】

「配偶者」が 69.8%で最も多く、「別居の子ども」が 25.2%で続いています。

第 9 期から第 10 期にかけて「配偶者」は 1.8 ポイント増加しています。引き続き、看病や世話をしてあげる相手は配偶者が中心となっています。

	第10期調査	第9期調査
配偶者	69.8%	68.0%
同居の子ども	21.9%	22.0%
別居の子ども	25.2%	26.3%
兄弟姉妹・親戚・親・孫	18.7%	20.0%
近隣	2.3%	4.2%
友人	5.4%	6.6%
その他	1.4%	1.6%
そのような人はいない	9.1%	11.2%

問 45　家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手を教えてください。（複数選択可）【第 10 期調査 n=1,149、第 9 期調査 n=1,135】

「そのような人はいない」が 50.2%で最も多く、「医師・歯科医師・看護師」が 23.7%で続いています。

「そのような人はいない」は第 9 期から第 10 期にかけて 4.1 ポイント増加しました。家族や友人・知人以外では相談相手がいないとする人が半数を占めています。

	第10期調査	第9期調査
自治会・町内会・老人クラブ	9.3%	12.6%
社会福祉協議会・民生委員	10.0%	10.9%
ケアマネジャー	5.7%	6.4%
医師・歯科医師・看護師	23.7%	28.1%
地域包括支援センター・市役所	16.4%	17.4%
その他	4.8%	2.1%
そのような人はいない	50.2%	46.1%

世帯類型別クロス

世帯類型別にみると、「そのような人はいない」は夫婦 2 人暮らし（配偶者 64 歳以下）で 62.1%と最も多くなっています。一方、「医師・歯科医師・看護師」は夫婦 2 人暮らし（配偶者 65 歳以上）で 26.3%と比較的多くなっています。統計的には世帯類型別で有意な差がみられます。

	１人暮らし	夫婦２人暮らし（配偶者65歳以上）	夫婦２人暮らし（配偶者64歳以下）	息子・娘との２世帯	その他
件数(n値)	194	505	58	210	151
自治会・町内会・老人クラブ	4.6%	10.1%	10.3%	11.0%	7.9%
社会福祉協議会・民生委員	17.5%	8.7%	5.2%	7.6%	9.3%
ケアマネジャー	8.2%	4.6%	5.2%	4.3%	9.9%
医師・歯科医師・看護師	20.6%	26.3%	13.8%	24.3%	21.2%
地域包括支援センター・市役所	18.6%	16.2%	13.8%	13.3%	18.5%
その他	4.1%	5.3%	3.4%	2.9%	7.3%
そのような人はいない	49.5%	49.1%	62.1%	53.3%	49.0%

問 46　友人・知人と会う頻度はどれくらいですか。（1 つを選択）
【第 10 期調査 n=1,211、第 9 期調査 n=1,238】

「月に何度かある」が 31.2%で最も多く、「週に何度かある」が 25.9%で続いています。最も少ないのは「毎日ある」で 6.1%です。

第 9 期から第 10 期にかけて「月に何度かある」は 3.3 ポイント増加しており、友人・知人との交流機会は月に数回の頻度を中心にみられます。

	第10期調査	第9期調査
毎日ある	6.1%	7.2%
週に何度かある	25.9%	26.5%
月に何度かある	31.2%	27.9%
年に何度かある	18.1%	17.0%
ほとんどない	18.7%	21.4%

問 47　この 1 か月間、何人の友人・知人と会いましたか。同じ人には何度会っても 1 人と数えることとします。（1 つを選択）
【第 10 期調査 n=1,204、第 9 期調査 n=1,243】

「3～5 人」が 27.0%で最も多く、「1～2 人」が 24.3%で続いています。最も少ないのは「6～9 人」で 9.4%です。

第 9 期から第 10 期にかけて「3～5 人」は 2.8 ポイント減少していますが、全体の分布に大きな変化はみられません。

	第10期調査	第9期調査
０人（いない）	15.1%	15.8%
１～２人	24.3%	23.7%
３～５人	27.0%	29.8%
６～９人	9.4%	9.5%
10人以上	24.2%	21.2%

問 48　よく会う友人・知人はどのような関係の人ですか。（複数選択可）
【第 10 期調査 n=1,206、第 9 期調査 n=1,229】

「近所・同じ地域の人」が 48.5%で最も多く、「趣味や関心が同じ友人」が 35.9%、「仕事での同僚・元同僚」が 35.2%で続いています。

第 9 期から第 10 期にかけて「近所・同じ地域の人」は 1.2 ポイント減少したものの、引き続き最も高い割合を占めています。地域のつながりが友人・知人関係の基盤となっていることがうかがえます。

	第10期調査	第9期調査
近所・同じ地域の人	48.5%	49.7%
幼なじみ	8.3%	7.6%
学生時代の友人	13.2%	11.0%
仕事での同僚・元同僚	35.2%	27.5%
趣味や関心が同じ友人	35.9%	34.7%
ボランティア等の活動での友人	5.3%	5.5%
その他	4.6%	4.7%
いない	10.3%	10.1%

問 49　ご近所で、高齢者や障がい者のみの世帯など、困っている世帯があったら、あなたはどのような対応をしますか。（1 つを選択）
【第 10 期調査 n=1,175、第 9 期調査 n=1,195】

「頼まれればお手伝いしたい」が 34.2%で最も多く、「お手伝いをしたいと思うが、自分のことで精一杯でできない」が 26.9%で続いています。

第 9 期から第 10 期にかけて「頼まれればお手伝いしたい」は 1.3 ポイント減少しましたが、引き続き、「頼まれればお手伝いしたい」が最も高い割合を占めています。

	第10期調査	第9期調査
進んでお手伝いしたい	3.9%	3.8%
頼まれればお手伝いしたい	34.2%	35.5%
お手伝いをしたいと思うが、お節介と思われたくないのでためらってしまう	13.4%	13.6%
お手伝いをしたいと思うが、自分のことで精一杯でできない	26.9%	26.6%
福祉サービスを利用すればよく、特に自分が手伝う必要はない	5.4%	6.6%
その他	1.6%	1.3%
わからない	14.6%	12.6%

性・年齢別クロス

性・年齢別にみると、「お手伝いをしたいと思うが、自分のことで精一杯でできない」は女性 85 歳以上で最も多く、男性 85 歳以上でも比較的多くなっています。統計的には性・年齢別で有意な差がみられます。

	男性65～74歳	男性75～84歳	男性85歳以上	女性65～74歳	女性75～84歳	女性85歳以上
件数(n値)	272	226	37	273	265	61
進んでお手伝いしたい	2.2%	3.5%	5.4%	3.7%	6.4%	1.6%
頼まれればお手伝いしたい	33.5%	35.8%	29.7%	37.4%	36.2%	9.8%
お手伝いをしたいと思うが、お節介と思われたくないのでためらってしまう	15.8%	13.7%	8.1%	16.5%	10.6%	9.8%
お手伝いをしたいと思うが、自分のことで精一杯でできない	24.3%	20.4%	40.5%	20.5%	34.0%	50.8%
福祉サービスを利用すればよく、特に自分が手伝う必要はない	8.5%	8.8%	2.7%	3.7%	1.1%	3.3%
その他	1.1%	4.0%	2.7%	0.7%	0.8%	3.3%
わからない	14.7%	13.7%	10.8%	17.6%	10.9%	21.3%

問 49-②　問 49 で「進んでお手伝いしたい」「頼まれればお手伝いしたい」「お手伝いをしたいと思うが、お節介と思われたくないのでためらってしまう」と回答した方にお伺いします。具体的にどのような手助けができると思いますか。（複数選択可）【第 10 期調査 n=597、第 9 期調査 n=620】

「見守り・声かけ」が 51.1%で最も多く、「話し相手になること」が 42.7%、「ゴミ出し」が 40.7%で続いています。

第 9 期から第 10 期にかけて「見守り・声かけ」は 1.8 ポイント減少しましたが、引き続き最も高い割合を占めています。

	第10期調査	第9期調査
調理	8.4%	6.0%
掃除・洗濯	11.4%	11.5%
買い物（宅配は含まない）	29.3%	29.5%
ゴミ出し	40.7%	46.8%
外出同行（通院、買い物など）	18.8%	15.6%
見守り・声かけ	51.1%	52.9%
話し相手になること	42.7%	48.4%
相談相手になること	24.5%	27.4%
災害時の避難の手助け	26.1%	26.1%
防犯・防災のための巡回	7.2%	8.1%
住居内での困りごと支援（家具移動や蛍光灯の取替など）	14.6%	17.3%
その他	1.8%	1.5%

問 50　どのような条件が整えば、地域で困っている方のお手伝いをすることができると思いますか。（複数選択可）【第 10 期調査 n=1,105】

「活動範囲が近所であればできる」が 41.0%で最も多く、次いで「一緒に活動する仲間がいればできる」が 32.4%、「自分が得意なことを生かせるのであればできる」が 24.4%、「活動時間が短時間（1～3 時間程度）であればできる」が 24.2%となっています。身近な範囲で、仲間とともに、無理のない条件で参加できることが、地域で困っている方への支援活動に参加するための条件として多く挙げられています。

	第10期調査
特に条件なく活動できる	5.5%
活動したことがポイントとなり、自分が支援を必要とするときにそのポイントを使うことができる制度などがあればできる	4.0%
適当な報酬が得られればできる	4.7%
一緒に活動する仲間がいればできる	32.4%
自分が得意なことを生かせるのであればできる	24.4%
活動範囲が近所であればできる	41.0%
活動日が休日であればできる	6.4%
活動時間が短時間（１～３時間程度）であればできる	24.2%
事前の説明会があれば条件によっては参加できる	23.8%
その他	15.5%

性・年齢別クロス

性・年齢別にみると、「その他」は女性 85 歳以上で比較的多く、「適当な報酬が得られればできる」は男性 65～74 歳で比較的多くなっています。統計的には性・年齢別で有意な差がみられます。

	男性65～74歳	男性75～84歳	男性85歳以上	女性65～74歳	女性75～84歳	女性85歳以上
件数(n値)	264	215	36	262	239	52
特に条件なく活動できる	6.8%	8.4%	2.8%	3.8%	4.2%	1.9%
活動したことがポイントとなり、自分が支援を必要とするときにそのポイントを使うことができる制度などがあればできる	3.8%	3.7%	0.0%	5.3%	4.2%	0.0%
適当な報酬が得られればできる	10.2%	2.8%	0.0%	3.8%	1.7%	3.8%
一緒に活動する仲間がいればできる	25.8%	26.5%	27.8%	44.3%	36.4%	23.1%
自分が得意なことを生かせるのであればできる	29.9%	21.9%	25.0%	26.0%	21.3%	13.5%
活動範囲が近所であればできる	36.7%	40.9%	44.4%	46.2%	44.4%	30.8%
活動日が休日であればできる	12.1%	1.4%	2.8%	8.8%	4.6%	0.0%
活動時間が短時間（１～３時間程度）であればできる	21.2%	21.9%	27.8%	33.6%	24.7%	5.8%
事前の説明会があれば条件によっては参加できる	27.3%	23.3%	11.1%	26.7%	20.5%	15.4%
その他	12.9%	17.7%	13.9%	8.4%	17.6%	46.2%

日常生活圏域別クロス

日常生活圏域別にみると、圏域ごとに回答割合の違いはみられるものの、全体として大きな差はみられません。なお、統計的には日常生活圏域別で有意な差はみられません。

	鈴鹿第１	鈴鹿第２	鈴鹿第３	鈴鹿第４	鈴鹿第５	鈴鹿第６	鈴鹿第７	鈴鹿第８	亀山第１	亀山第２
件数(n値)	121	141	90	81	86	91	121	81	119	126
特に条件なく活動できる	5.0%	5.0%	2.2%	4.9%	7.0%	3.3%	6.6%	4.9%	7.6%	8.7%
活動したことがポイントとなり、自分が支援を必要とするときにそのポイントを使うことができる制度などがあればできる	5.0%	2.1%	3.3%	0.0%	2.3%	5.5%	6.6%	7.4%	5.0%	2.4%
適当な報酬が得られればできる	5.8%	4.3%	4.4%	2.5%	1.2%	8.8%	5.8%	7.4%	4.2%	2.4%
一緒に活動する仲間がいればできる	36.4%	31.2%	34.4%	28.4%	36.0%	30.8%	33.1%	33.3%	36.1%	29.4%
自分が得意なことを生かせるのであればできる	24.0%	22.0%	23.3%	28.4%	24.4%	29.7%	24.8%	24.7%	19.3%	23.0%
活動範囲が近所であればできる	36.4%	40.4%	43.3%	44.4%	40.7%	39.6%	38.8%	53.1%	39.5%	42.1%
活動日が休日であればできる	5.0%	10.6%	5.6%	6.2%	4.7%	6.6%	5.0%	3.7%	7.6%	8.7%
活動時間が短時間（１～３時間程度）であればできる	26.4%	20.6%	27.8%	24.7%	24.4%	25.3%	29.8%	25.9%	23.5%	21.4%
事前の説明会があれば条件によっては参加できる	33.9%	17.0%	31.1%	25.9%	30.2%	19.8%	27.3%	16.0%	20.2%	19.8%
その他	16.5%	16.3%	18.9%	11.1%	14.0%	15.4%	15.7%	13.6%	13.4%	16.7%

問 51　隣近所や地域の人から手助けしてもらいたいことはありますか。（複数選択可）【第 10 期調査 n=1,181、第 9 期調査 n=1,189】

「特にない」が 70.4%で最も多く、「災害時の避難の手助け」が 15.2%で続いています。最も少ないのは「調理」で 0.7%です。

第 9 期から第 10 期にかけて「災害時の避難の手助け」が 3.5 ポイント増加しました。地域からの手助けを特に必要としていない人が多い一方で、災害時の避難支援に対するニーズは一定数みられます。

	第10期調査	第9期調査
調理	0.7%	0.3%
掃除・洗濯	0.8%	0.8%
買い物（宅配は含まない）	1.9%	2.3%
ゴミ出し	3.0%	3.2%
外出同行（通院、買い物など）	1.7%	1.9%
見守り・声かけ	6.0%	7.2%
話し相手になること	5.2%	8.7%
相談相手になること	4.7%	5.9%
災害時の避難の手助け	15.2%	11.7%
防犯・防災のための巡回	6.9%	4.9%
住居内での困りごと支援（家具移動や蛍光灯の取替など）	5.2%	5.0%
その他	0.9%	1.4%
特にない	70.4%	70.2%

世帯類型別クロス

世帯類型別にみると、１人暮らしでは「住居内での困りごと支援」を希望する割合が比較的高くなっています。統計的には世帯類型別で有意な差がみられます。

	１人暮らし	夫婦２人暮らし（配偶者65歳以上）	夫婦２人暮らし（配偶者64歳以下）	息子・娘との２世帯	その他
件数(n値)	191	521	58	216	159
調理	1.0%	0.6%	0.0%	0.9%	0.0%
掃除・洗濯	2.1%	0.4%	0.0%	0.9%	0.0%
買い物（宅配は含まない）	4.7%	2.3%	0.0%	0.0%	0.6%
ゴミ出し	6.3%	3.5%	0.0%	0.9%	1.9%
外出同行（通院、買い物など）	4.7%	1.5%	0.0%	0.5%	1.3%
見守り・声かけ	9.4%	6.3%	3.4%	2.8%	6.3%
話し相手になること	8.9%	4.4%	5.2%	3.2%	4.4%
相談相手になること	7.9%	3.8%	3.4%	5.1%	2.5%
災害時の避難の手助け	21.5%	12.9%	12.1%	15.7%	15.7%
防犯・防災のための巡回	5.2%	8.1%	1.7%	9.7%	3.8%
住居内での困りごと支援（家具移動や蛍光灯の取替など）	14.7%	4.2%	1.7%	2.3%	3.1%
その他	2.1%	0.6%	0.0%	0.0%	1.9%
特にない	54.5%	72.7%	81.0%	75.5%	74.2%

日常生活圏域別クロス

日常生活圏域別にみると、「特にない」は亀山第 2 が 78.0%で最も多く、次いで鈴鹿第 5 が 73.1%、鈴鹿第 2 が 72.5%となっています。一方、「話し相手になること」は鈴鹿第 4 が 15.6%で比較的多く、「災害時の避難の手助け」も鈴鹿第 4 が 21.1%で最も多くなっています。なお、統計的には日常生活圏域別で有意な差はみられません。

	鈴鹿第１	鈴鹿第２	鈴鹿第３	鈴鹿第４	鈴鹿第５	鈴鹿第６	鈴鹿第７	鈴鹿第８	亀山第１	亀山第２
件数(n値)	125	153	101	90	93	98	125	91	129	127
調理	2.4%	0.7%	1.0%	0.0%	1.1%	1.0%	0.0%	1.1%	0.0%	0.0%
掃除・洗濯	1.6%	2.0%	1.0%	1.1%	2.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
買い物（宅配は含まない）	3.2%	2.0%	2.0%	3.3%	3.2%	0.0%	0.8%	2.2%	2.3%	0.8%
ゴミ出し	2.4%	2.6%	5.9%	1.1%	1.1%	3.1%	1.6%	5.5%	4.7%	3.1%
外出同行（通院、買い物など）	2.4%	2.0%	2.0%	2.2%	0.0%	2.0%	0.8%	2.2%	2.3%	1.6%
見守り・声かけ	6.4%	6.5%	5.9%	7.8%	6.5%	8.2%	8.0%	3.3%	7.8%	2.4%
話し相手になること	7.2%	5.2%	4.0%	15.6%	2.2%	4.1%	2.4%	6.6%	4.7%	3.1%
相談相手になること	4.8%	3.9%	5.9%	6.7%	4.3%	6.1%	4.8%	6.6%	3.9%	2.4%
災害時の避難の手助け	14.4%	12.4%	19.8%	21.1%	14.0%	15.3%	16.0%	19.8%	17.1%	10.2%
防犯・防災のための巡回	7.2%	5.9%	9.9%	8.9%	3.2%	11.2%	8.0%	7.7%	5.4%	4.7%
住居内での困りごと支援（家具移動や蛍光灯の取替など）	5.6%	3.9%	5.0%	7.8%	5.4%	1.0%	4.8%	5.5%	8.5%	6.3%
その他	0.8%	1.3%	0.0%	0.0%	1.1%	0.0%	1.6%	0.0%	3.1%	0.8%
特にない	70.4%	72.5%	67.3%	55.6%	73.1%	72.4%	68.8%	65.9%	68.2%	78.0%

問 52　今、住んでいる地域（地区、自治会など）を高齢者にとって暮らしやすい地域にするためには、どのようなことが重要だと思いますか。（3 つまで選択可）
【第 10 期調査 n=1,123、第 9 期調査 n=1,183】

「近所同士のつきあいを深める」が 36.8%で最も多く、「災害など、緊急時の支え合い体制を充実する」が 35.2%で続いています。

第 9 期から第 10 期にかけて「近所同士のつきあいを深める」は 1.9 ポイント減少していますが、引き続き高い割合を占めています。地域のつながりや緊急時の支え合いの重要性が意識されていることがうかがえます。

	第10期調査	第9期調査
子ども世代との交流を促進する	7.6%	8.3%
老人クラブなど、高齢者同士の交流を促進する	13.8%	15.8%
近所同士のつきあいを深める	36.8%	38.7%
ふれあいサロンなど、近所で気軽に集まれる場を地域の人びとでつくり出す	22.5%	21.4%
地域の人びとによる日頃の見守りを充実する	14.1%	15.6%
民生委員・児童委員等の見守り、相談・支援活動を充実する	13.2%	12.4%
ボランティアなどを育成して、見守り、生活支援の活動をしてもらう	4.6%	6.3%
高齢者の移動手段を、ＮＰＯなどの力を借りて確保する	16.9%	14.5%
災害など、緊急時の支え合い体制を充実する	35.2%	31.1%
その他	2.0%	2.6%
特にない	16.8%	18.5%

性・年齢別クロス

性・年齢別にみると、全体として「近所同士のつきあいを深める」と「災害など、緊急時の支え合い体制を充実する」が上位に挙がっています。特に男性 85 歳以上では「近所同士のつきあいを深める」が比較的多くなっています。統計的には性・年齢別で有意な差がみられます。

	男性65～74歳	男性75～84歳	男性85歳以上	女性65～74歳	女性75～84歳	女性85歳以上
件数(n値)	270	213	36	259	251	54
子ども世代との交流を促進する	7.8%	7.5%	8.3%	9.7%	5.2%	5.6%
老人クラブなど、高齢者同士の交流を促進する	10.7%	12.2%	19.4%	9.7%	20.7%	22.2%
近所同士のつきあいを深める	34.8%	40.4%	55.6%	32.0%	39.8%	40.7%
ふれあいサロンなど、近所で気軽に集まれる場を地域の人びとでつくり出す	19.3%	16.4%	11.1%	28.2%	31.1%	13.0%
地域の人びとによる日頃の見守りを充実する	14.4%	13.1%	8.3%	19.3%	12.0%	11.1%
民生委員・児童委員等の見守り、相談・支援活動を充実する	12.2%	15.0%	25.0%	8.9%	14.3%	18.5%
ボランティアなどを育成して、見守り、生活支援の活動をしてもらう	6.3%	3.3%	0.0%	6.2%	4.0%	3.7%
高齢者の移動手段を、ＮＰＯなどの力を借りて確保する	13.0%	14.1%	16.7%	18.1%	19.9%	24.1%
災害など、緊急時の支え合い体制を充実する	33.3%	34.7%	33.3%	42.1%	32.7%	29.6%
その他	2.6%	0.9%	8.3%	1.5%	1.2%	3.7%
特にない	21.5%	21.6%	8.3%	12.7%	12.0%	14.8%

世帯類型別クロス

世帯類型別にみると、回答傾向に大きな差はみられません。統計的には世帯類型別で有意な差はみられません。

	１人暮らし	夫婦２人暮らし（配偶者65歳以上）	夫婦２人暮らし（配偶者64歳以下）	息子・娘との２世帯	その他
件数(n値)	181	498	59	208	147
子ども世代との交流を促進する	5.5%	7.0%	3.4%	12.5%	8.2%
老人クラブなど、高齢者同士の交流を促進する	15.5%	13.3%	11.9%	13.0%	14.3%
近所同士のつきあいを深める	35.9%	38.6%	32.2%	36.1%	29.9%
ふれあいサロンなど、近所で気軽に集まれる場を地域の人びとでつくり出す	25.4%	20.1%	23.7%	26.0%	24.5%
地域の人びとによる日頃の見守りを充実する	13.8%	12.4%	13.6%	16.8%	17.0%
民生委員・児童委員等の見守り、相談・支援活動を充実する	14.4%	13.3%	18.6%	10.6%	12.2%
ボランティアなどを育成して、見守り、生活支援の活動をしてもらう	6.1%	4.6%	5.1%	3.4%	5.4%
高齢者の移動手段を、ＮＰＯなどの力を借りて確保する	14.4%	17.3%	16.9%	20.2%	17.0%
災害など、緊急時の支え合い体制を充実する	30.9%	35.5%	39.0%	35.6%	37.4%
その他	2.2%	2.0%	1.7%	0.5%	3.4%
特にない	16.6%	17.7%	18.6%	13.9%	17.7%

日常生活圏域別クロス

日常生活圏域別にみると、圏域ごとに回答割合の違いはみられるものの、全体として大きな差はみられません。なお、統計的には日常生活圏域別で有意な差はみられません。

	鈴鹿第１	鈴鹿第２	鈴鹿第３	鈴鹿第４	鈴鹿第５	鈴鹿第６	鈴鹿第７	鈴鹿第８	亀山第１	亀山第２
件数(n値)	116	145	91	84	97	87	119	87	127	123
子ども世代との交流を促進する	6.9%	9.7%	7.7%	3.6%	11.3%	4.6%	5.0%	6.9%	9.4%	6.5%
老人クラブなど、高齢者同士の交流を促進する	18.1%	19.3%	17.6%	11.9%	12.4%	12.6%	6.7%	11.5%	14.2%	11.4%
近所同士のつきあいを深める	36.2%	33.8%	35.2%	41.7%	39.2%	41.4%	39.5%	34.5%	37.0%	35.0%
ふれあいサロンなど、近所で気軽に集まれる場を地域の人びとでつくり出す	27.6%	22.8%	19.8%	20.2%	23.7%	23.0%	25.2%	20.7%	24.4%	19.5%
地域の人びとによる日頃の見守りを充実する	21.6%	13.1%	12.1%	9.5%	15.5%	10.3%	16.8%	17.2%	15.0%	13.0%
民生委員・児童委員等の見守り、相談・支援活動を充実する	13.8%	10.3%	12.1%	11.9%	9.3%	18.4%	13.4%	14.9%	14.2%	17.1%
ボランティアなどを育成して、見守り、生活支援の活動をしてもらう	5.2%	4.8%	3.3%	2.4%	5.2%	6.9%	6.7%	3.4%	3.1%	6.5%
高齢者の移動手段を、ＮＰＯなどの力を借りて確保する	22.4%	14.5%	19.8%	13.1%	12.4%	16.1%	16.8%	16.1%	15.7%	18.7%
災害など、緊急時の支え合い体制を充実する	31.0%	31.7%	38.5%	32.1%	35.1%	31.0%	40.3%	41.4%	33.9%	38.2%
その他	0.9%	2.8%	0.0%	4.8%	0.0%	1.1%	1.7%	2.3%	2.4%	3.3%
特にない	12.9%	15.2%	16.5%	17.9%	17.5%	18.4%	14.3%	19.5%	19.7%	14.6%

問 53　今住んでいる地域には、住民主体による支え合い活動がありますか。（1 つを選択）【第 10 期調査 n=1,183】

「知らない」が 57.4%で最も多く、「ある」が 25.4%で続いています。最も少ないのは「ない」で 17.2%です。住民主体による支え合い活動を認識していない人が多くみられます。

	第10期調査
ある	25.4%
ない	17.2%
知らない	57.4%

日常生活圏域別クロス

日常生活圏域別にみると、「ある」は鈴鹿第 8 が 32.2%で最も多く、次いで鈴鹿第 1 が 31.7%、亀山第 1 が 31.5%となっています。一方、「ない」は鈴鹿第 3 が 26.0%で最も多く、「知らない」は鈴鹿第 5 が 71.1%で最も多くなっています。なお、統計的には日常生活圏域別で有意な差がみられます。

	鈴鹿第１	鈴鹿第２	鈴鹿第３	鈴鹿第４	鈴鹿第５	鈴鹿第６	鈴鹿第７	鈴鹿第８	亀山第１	亀山第２
件数(n値)	126	154	100	90	97	95	124	90	130	124
ある	31.7%	27.3%	25.0%	20.0%	14.4%	25.3%	20.2%	32.2%	31.5%	29.8%
ない	19.0%	11.0%	26.0%	23.3%	14.4%	20.0%	17.7%	12.2%	10.0%	18.5%
知らない	49.2%	61.7%	49.0%	56.7%	71.1%	54.7%	62.1%	55.6%	58.5%	51.6%

問 54　避難行動要支援者（旧 災害時要援護者）の登録について知っていますか。（1 つを選択）【第 10 期調査 n=1,186、第 9 期調査 n=1,221】

※「避難行動要支援者（旧 災害時要援護者）の登録」とは、災害時の避難や避難所生活で、さまざまな困難が予想される高齢者や障がい者等を登録し、地域における住民同士の助け合いや支援を行いやすくするものです。

「知らない」が 77.3%、「知っている」が 22.7%となっています。

第 9 期から第 10 期にかけて「知らない」は 0.6 ポイント増加しました。引き続き「知らない」が高い割合を占めています。

	第10期調査	第9期調査
知っている	22.7%	23.3%
知らない	77.3%	76.7%

日常生活圏域別クロス

日常生活圏域別にみると、圏域ごとに回答割合の違いはみられるものの、全体として大きな差はみられません。なお、統計的には日常生活圏域別で有意な差はみられません。

	鈴鹿第１	鈴鹿第２	鈴鹿第３	鈴鹿第４	鈴鹿第５	鈴鹿第６	鈴鹿第７	鈴鹿第８	亀山第１	亀山第２
件数(n値)	124	155	100	91	97	95	124	90	129	129
知っている	25.0%	22.6%	19.0%	17.6%	22.7%	26.3%	22.6%	18.9%	23.3%	27.9%
知らない	75.0%	77.4%	81.0%	82.4%	77.3%	73.7%	77.4%	81.1%	76.7%	72.1%

問 55　避難行動要支援者（旧 災害時要援護者）への支援活動において、「支援を必要とする人」の支援者になってもよいと思いますか。（1 つを選択）
【第 10 期調査 n=1,169、第 9 期調査 n=1,202】

「どちらともいえない」が 63.6%で最も多く、「思わない」が 20.1%で続いています。最も少ないのは「思う」で 16.3%です。

第 9 期から第 10 期にかけて「どちらともいえない」は 2.4 ポイント増加しました。引き続き「どちらともいえない」が 6 割を超えています。

	第10期調査	第9期調査
思う	16.3%	17.6%
思わない	20.1%	21.1%
どちらともいえない	63.6%	61.2%

日常生活圏域別クロス

日常生活圏域別にみると、圏域ごとに回答割合の違いはみられるものの、全体として大きな差はみられません。なお、統計的には日常生活圏域別で有意な差はみられません。

	鈴鹿第１	鈴鹿第２	鈴鹿第３	鈴鹿第４	鈴鹿第５	鈴鹿第６	鈴鹿第７	鈴鹿第８	亀山第１	亀山第２
件数(n値)	120	151	98	92	96	94	123	90	128	127
思う	19.2%	16.6%	12.2%	9.8%	9.4%	17.0%	16.3%	17.8%	22.7%	18.1%
思わない	15.8%	23.2%	26.5%	22.8%	17.7%	19.1%	17.9%	25.6%	16.4%	15.0%
どちらともいえない	65.0%	60.3%	61.2%	67.4%	72.9%	63.8%	65.9%	56.7%	60.9%	66.9%

8 健康について

問 56　現在のあなたの健康状態はいかがですか。（1 つを選択）
【第 10 期調査 n=1,211、第 9 期調査 n=1,253】

「まあよい」が 66.6%で最も多く、次いで「あまりよくない」が 20.5%、「よくない」が 3.0%となっています。

第 9 期から第 10 期にかけて「まあよい」は 1.1 ポイント減少しており、健康状態の評価は前回調査と比べて大きな変化はみられません。

	第10期調査	第9期調査
とてもよい	9.9%	9.7%
まあよい	66.6%	67.7%
あまりよくない	20.5%	19.7%
よくない	3.0%	3.0%

性・年齢別クロス

性・年齢別にみると、「まあよい」がいずれの区分でも最も多く、女性 65～74 歳で 70.9%、女性 75～84 歳で 68.5%、男性 65～74 歳で 67.4%となっています。一方、「あまりよくない」は男性 85 歳以上が 32.4%で最も多く、次いで女性 85 歳以上が 27.3%、男性 75～84 歳が 23.6%となっています。なお、統計的には性・年齢別で有意な差がみられます。

	男性65～74歳	男性75～84歳	男性85歳以上	女性65～74歳	女性75～84歳	女性85歳以上
件数(n値)	279	229	37	278	279	66
とてもよい	11.8%	10.5%	5.4%	11.9%	8.2%	4.5%
まあよい	67.4%	60.3%	62.2%	70.9%	68.5%	65.2%
あまりよくない	18.3%	23.6%	32.4%	16.9%	19.4%	27.3%
よくない	2.5%	5.7%	0.0%	0.4%	3.9%	3.0%

問 57　あなたは、現在どの程度幸せですか。（0 点=とても不幸、10 点=とても幸せ）【第 10 期調査 n=1,181、第 9 期調査 n=1,222】

「8 点」が 23.0%で最も多く、次いで「5 点」が 17.6%、「7 点」が 17.4%となっており、最も少ないのは「0 点」の 0.2%です。7～10 点の比較的高い点数は 64.4%と全体の 6 割超を占める一方、0～4 点の低い点数も 7.7%みられます。

第 9 期から第 10 期にかけて大きな分布の変化はみられませんが、「10 点」は 2.1 ポイント増加し、「5 点」は 2.4 ポイント減少しています。

	第10期調査	第9期調査
0点	0.2%	0.2%
1点	0.5%	0.4%
2点	0.9%	0.9%
3点	3.1%	3.0%
4点	3.0%	3.3%
5点	17.6%	20.0%
6点	10.1%	10.5%
7点	17.4%	18.0%
8点	23.0%	22.9%
9点	10.4%	9.3%
10点	13.6%	11.5%

性・年齢別クロス

性・年齢別にみると、男性 65～74 歳、男性 85 歳以上、女性 65～74 歳、女性 75～84 歳では「8 点」が最も多く、男性 75～84 歳では「5 点」が最も多くなっています。また、女性 85 歳以上では「5 点」と「10 点」が同率で最も多くなっています。なお、統計的には性・年齢別で有意な差はみられません。

	男性65～74歳	男性75～84歳	男性85歳以上	女性65～74歳	女性75～84歳	女性85歳以上
件数(n値)	277	225	35	270	269	62
0点	0.4%	0.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
1点	0.4%	0.4%	2.9%	0.4%	0.7%	0.0%
2点	0.7%	2.2%	0.0%	0.4%	0.7%	0.0%
3点	4.7%	4.4%	2.9%	1.5%	1.5%	3.2%
4点	2.9%	4.0%	2.9%	2.6%	3.0%	1.6%
5点	17.7%	20.4%	17.1%	14.8%	17.1%	19.4%
6点	9.0%	13.3%	11.4%	10.4%	8.9%	9.7%
7点	16.2%	15.6%	17.1%	21.1%	16.4%	17.7%
8点	30.0%	17.3%	28.6%	23.7%	22.3%	14.5%
9点	6.1%	8.4%	11.4%	11.9%	14.5%	14.5%
10点	11.9%	13.3%	5.7%	13.3%	14.9%	19.4%

世帯類型別クロス

世帯類型別にみると、夫婦 2 人暮らし（配偶者 64 歳以下）では「8 点」が 30.5%と比較的多くなっています。統計的には世帯類型別で有意な差がみられます。

	１人暮らし	夫婦２人暮らし（配偶者65歳以上）	夫婦２人暮らし（配偶者64歳以下）	息子・娘との２世帯	その他
件数(n値)	196	520	59	218	155
0点	0.0%	0.2%	0.0%	0.0%	0.0%
1点	0.5%	0.8%	0.0%	0.0%	0.6%
2点	1.0%	1.5%	0.0%	0.5%	0.0%
3点	7.1%	1.9%	10.2%	0.0%	3.2%
4点	6.1%	2.5%	1.7%	1.8%	3.2%
5点	23.5%	17.1%	5.1%	17.0%	18.7%
6点	9.7%	10.6%	8.5%	10.6%	10.3%
7点	18.4%	16.2%	25.4%	19.7%	15.5%
8点	16.3%	24.8%	30.5%	23.9%	17.4%
9点	9.2%	10.4%	6.8%	11.9%	12.9%
10点	8.2%	14.0%	11.9%	14.7%	18.1%

認定状況別クロス

認定状況別にみると、要支援 1 では「6 点」が 26.5%で最も多く、要支援 2 及び事業対象者では「5 点」がそれぞれ 29.2%、50.0%で最も多くなっています。一方、「受けていない」では「8 点」が 24.4%で最も多く、「わからない」では「5 点」と「9 点」がいずれも 20.7%で最も多くなっています。なお、統計的には認定状況別で有意な差がみられます。

	要支援１	要支援２	事業対象者	受けていない	わからない
件数(n値)	34	24	8	1032	29
0点	2.9%	0.0%	0.0%	0.1%	0.0%
1点	0.0%	0.0%	0.0%	0.5%	3.4%
2点	0.0%	0.0%	0.0%	0.8%	3.4%
3点	2.9%	4.2%	0.0%	3.0%	6.9%
4点	2.9%	4.2%	0.0%	2.9%	3.4%
5点	8.8%	29.2%	50.0%	17.1%	20.7%
6点	26.5%	12.5%	12.5%	9.4%	13.8%
7点	20.6%	16.7%	12.5%	17.4%	17.2%
8点	11.8%	12.5%	12.5%	24.4%	6.9%
9点	14.7%	4.2%	12.5%	10.4%	20.7%
10点	8.8%	16.7%	0.0%	14.1%	3.4%

日常生活圏域別クロス

日常生活圏域別にみると、圏域ごとに回答割合の違いはみられるものの、全体として大きな差はみられません。なお、統計的には日常生活圏域別で有意な差はみられません。

	鈴鹿第１	鈴鹿第２	鈴鹿第３	鈴鹿第４	鈴鹿第５	鈴鹿第６	鈴鹿第７	鈴鹿第８	亀山第１	亀山第２
件数(n値)	126	154	100	89	97	94	127	87	131	125
0点	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.0%	0.0%	0.0%	1.1%	0.0%	0.0%
1点	0.0%	0.0%	1.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.6%	0.0%	0.0%	1.6%
2点	0.8%	0.6%	1.0%	1.1%	2.1%	1.1%	0.0%	1.1%	1.5%	0.0%
3点	0.8%	3.9%	6.0%	2.2%	2.1%	2.1%	2.4%	5.7%	1.5%	4.0%
4点	3.2%	3.2%	1.0%	3.4%	3.1%	3.2%	5.5%	3.4%	3.1%	1.6%
5点	10.3%	18.2%	15.0%	22.5%	21.6%	19.1%	19.7%	13.8%	19.1%	17.6%
6点	13.5%	6.5%	10.0%	9.0%	14.4%	8.5%	8.7%	8.0%	12.2%	12.0%
7点	20.6%	18.2%	19.0%	22.5%	12.4%	9.6%	13.4%	17.2%	19.1%	21.6%
8点	25.4%	20.1%	21.0%	19.1%	15.5%	29.8%	27.6%	24.1%	28.2%	21.6%
9点	8.7%	14.3%	12.0%	9.0%	10.3%	12.8%	9.4%	9.2%	6.1%	10.4%
10点	16.7%	14.9%	14.0%	11.2%	17.5%	13.8%	11.8%	16.1%	9.2%	9.6%

問 58　この 1 か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか。（1 つを選択）【第 10 期調査 n=1,196、第 9 期調査 n=1,242】

「いいえ」が 62.3%、「はい」が 37.7%となっており、気分の落ち込みやゆううつな気持ちを感じた人は 4 割近くみられます。

第 9 期から第 10 期にかけて「いいえ」は 1.8 ポイント減少し、「はい」は 1.8 ポイント増加しています。

	第10期調査	第9期調査
はい	37.7%	35.9%
いいえ	62.3%	64.1%

問 59　この 1 か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか。（1 つを選択）
【第 10 期調査 n=1,188、第 9 期調査 n=1,236】

「いいえ」が 77.2%、「はい」が 22.8%となっており、物事への興味や楽しみを感じにくい人は 2 割超みられます。

第 9 期から第 10 期にかけて「いいえ」は 0.7 ポイント増加し、「はい」は 0.7 ポイント減少していますが、引き続き「はい」と回答した人は 2 割を超えています。

	第10期調査	第9期調査
はい	22.8%	23.5%
いいえ	77.2%	76.5%

問 60　お酒は飲みますか。（1 つを選択）
【第 10 期調査 n=1,211、第 9 期調査 n=1,253】

「もともと飲まない」が 40.5%で最も多く、「ほとんど飲まない」が 25.2%で続いています。最も少ないのは「時々飲む」で 13.0%です。

「もともと飲まない」は第 9 期から第 10 期にかけて 0.7 ポイント減少しましたが、引き続き最も高い割合を占めています。

	第10期調査	第9期調査
ほぼ毎日飲む	21.4%	22.3%
時々飲む	13.0%	11.7%
ほとんど飲まない	25.2%	24.7%
もともと飲まない	40.5%	41.2%

問 61　タバコは吸っていますか。（1 つを選択）
【第 10 期調査 n=1,214、第 9 期調査 n=1,254】

「もともと吸っていない」が 58.4%で最も多く、「吸っていたがやめた」が 32.9%で続いています。最も少ないのは「時々吸っている」で 1.4%です。

第 9 期から第 10 期にかけて「もともと吸っていない」は 2.0 ポイント減少しましたが、引き続き最も高い割合を占めています。

	第10期調査	第9期調査
ほぼ毎日吸っている	7.3%	7.3%
時々吸っている	1.4%	1.6%
吸っていたがやめた	32.9%	30.8%
もともと吸っていない	58.4%	60.4%

問 62　現在治療中、または後遺症のある病気はありますか。（複数選択可）
【第 10 期調査 n=1,184、第 9 期調査 n=1,227】

「高血圧」が 44.9%で最も多く、次いで「目の病気」が 20.2%、「高脂血症（脂質異常）」が 19.6%、「糖尿病」が 18.0%となっており、生活習慣病や感覚器の病気が多くみられます。

第 9 期から第 10 期にかけて「高血圧」は横ばいで推移する一方、「筋骨格の病気（骨粗しょう症、関節症等）」は 3.7 ポイント増、「高脂血症（脂質異常）」は 3.5 ポイント増、「目の病気」は 2.4 ポイント増となっています。

	第10期調査	第9期調査
ない	16.9%	16.6%
高血圧	44.9%	44.9%
脳卒中（脳出血・脳梗塞等）	3.8%	2.7%
心臓病	8.8%	9.8%
糖尿病	18.0%	17.3%
高脂血症（脂質異常）	19.6%	16.1%
呼吸器の病気（肺炎や気管支炎等）	6.4%	6.2%
胃腸・肝臓・胆のうの病気	6.1%	5.9%
腎臓・前立腺の病気	9.2%	8.3%
筋骨格の病気（骨粗しょう症、関節症等）	16.3%	12.6%
外傷（転倒・骨折等）	3.1%	2.9%
がん（悪性新生物）	5.2%	6.0%
血液・免疫の病気	1.4%	1.1%
うつ病	1.2%	1.1%
認知症（アルツハイマー病等）	0.5%	0.8%
パーキンソン病	0.8%	0.6%
目の病気	20.2%	17.8%
耳の病気	5.4%	4.9%
その他	7.0%	7.3%

問 63　「かかりつけ医（主治医）」または、いつもかかっている医療機関がありますか。（1 つを選択）【第 10 期調査 n=1,214、第 9 期調査 n=1,249】

※「かかりつけ医」とは、健康を管理するために、普段から心身の状態について気軽に相談できる身近な医師のことです。

「はい」が 90.6%、「いいえ」が 9.4%となっており、「はい」が多数を占めています。

第 9 期から第 10 期にかけて 0.8 ポイント減少しましたが、引き続き高い割合を維持しています。

	第10期調査	第9期調査
はい	90.6%	91.4%
いいえ	9.4%	8.6%

問 64　日頃、健康や介護予防（介護が必要な状態にならないようにすること）のためにどのようなことを心がけていますか。（複数選択可）【第 10 期調査 n=1,212、第 9 期調査 n=1,248】

「毎日の食事や栄養に気をつけている」が 62.9%で最も多く、「睡眠や休養を十分にとるなどして規則正しい生活を心がけている」が 58.1%で続いています。最も少ないのは「その他」で 1.2%です。

第 9 期から第 10 期にかけて「毎日の食事や栄養に気をつけている」は 2.4 ポイント減少しました。食事や生活習慣への意識が高い一方で、取組内容には違いがみられます。

	第10期調査	第9期調査
毎日の食事や栄養に気をつけている	62.9%	65.3%
睡眠や休養を十分にとるなどして規則正しい生活を心がけている	58.1%	61.0%
適度に運動をしている	52.8%	52.6%
酒やタバコをなるべくひかえるようにしている	6.0%	6.3%
定期的に健康診断を受けている	51.6%	51.2%
その他	1.2%	1.5%
特に心がけていない	4.7%	4.7%

性・年齢別クロス

性・年齢別にみると、「酒やタバコをなるべくひかえるようにしている」は男性 65～74 歳及び男性 75～84 歳がともに 9.4%で比較的多くなっています。一方、「毎日の食事や栄養に気をつけている」は女性 75～84 歳が 75.2%で最も多く、「睡眠や休養を十分にとるなどして規則正しい生活を心がけている」は女性 85 歳以上が 67.2%で最も多くなっています。なお、統計的には性・年齢別で有意な差がみられます。

	男性65～74歳	男性75～84歳	男性85歳以上	女性65～74歳	女性75～84歳	女性85歳以上
件数(n値)	278	233	36	278	278	64
毎日の食事や栄養に気をつけている	51.1%	58.4%	61.1%	67.3%	75.2%	65.6%
睡眠や休養を十分にとるなどして規則正しい生活を心がけている	52.2%	57.5%	55.6%	59.0%	62.9%	67.2%
適度に運動をしている	54.7%	56.7%	58.3%	53.6%	50.7%	37.5%
酒やタバコをなるべくひかえるようにしている	9.4%	9.4%	8.3%	3.6%	2.5%	4.7%
定期的に健康診断を受けている	54.3%	56.7%	50.0%	48.9%	48.2%	53.1%
その他	1.1%	0.9%	5.6%	0.4%	0.7%	3.1%
特に心がけていない	5.4%	6.0%	2.8%	5.0%	2.9%	6.3%

問 64-②　問 64 で「特に心がけていない」と回答した方にお伺いします。健康づくりや介護予防を心がけていない理由は何ですか。（複数選択可）
【第 10 期調査 n=54、第 9 期調査 n=59】

「関心がないから」が 33.3%で最も多く、「めんどうだから」が 20.4%で続いています。最も少ないのは「取り組む場所がわからないから」で 1.9%です。

「関心がないから」は第 9 期から第 10 期にかけて 9.6 ポイント増加しました。引き続き健康づくりや介護予防を心がけていない理由として、「関心がないから」が最も多くなっています。

	第10期調査	第9期調査
時間がないから	14.8%	6.8%
経済的な理由から	16.7%	10.2%
必要性を感じないから	9.3%	25.4%
取り組み方がわからないから	13.0%	5.1%
取り組む場所がわからないから	1.9%	0.0%
きっかけがないから	13.0%	16.9%
一人では取り組みづらいから	7.4%	8.5%
めんどうだから	20.4%	25.4%
関心がないから	33.3%	23.7%
その他	11.1%	8.5%

問 65　介護予防のために、地域でどのような活動があれば参加したいですか。（複数選択可）【第 10 期調査 n=1,184、第 9 期調査 n=1,197】

「特にない」が 39.2%で最も多く、「運動に関するもの」が 29.7%で続いています。最も少ないのは「その他」で 0.9%です。

第 9 期から第 10 期にかけて「食事や栄養に関するもの」は 1.1 ポイント増加しました。食事や運動に関する活動への関心が比較的高くなっています。

	第10期調査	第9期調査
食事や栄養に関するもの	22.7%	21.6%
運動に関するもの	29.7%	29.3%
同世代がふれあえる交流の場	20.4%	21.3%
子どもなど他世代との交流の場	4.3%	4.1%
ボランティア活動	4.4%	6.6%
認知症予防に関するもの	27.0%	30.0%
歯や口腔衛生に関するもの	6.2%	6.9%
その他	0.9%	1.4%
特にない	39.2%	37.9%

性・年齢別クロス

性・年齢別にみると、「特にない」は男性 75～84 歳が 48.2%で最も多くなっています。一方、具体的な内容では、女性 85 歳以上で「同世代がふれあえる交流の場」が 31.3%と多く、女性 75～84 歳では「認知症予防に関するもの」が 36.0%、女性 65～74 歳では「運動に関するもの」が 36.9%で多くなっています。なお、統計的には性・年齢別で有意な差がみられます。

	男性65～74歳	男性75～84歳	男性85歳以上	女性65～74歳	女性75～84歳	女性85歳以上
件数(n値)	273	226	35	274	267	64
食事や栄養に関するもの	16.1%	15.5%	31.4%	26.6%	31.1%	26.6%
運動に関するもの	35.2%	19.9%	28.6%	36.9%	30.3%	17.2%
同世代がふれあえる交流の場	16.8%	19.0%	22.9%	16.4%	27.3%	31.3%
子どもなど他世代との交流の場	7.3%	4.9%	2.9%	4.7%	1.9%	0.0%
ボランティア活動	4.4%	4.4%	0.0%	4.7%	4.1%	4.7%
歯や口腔衛生に関するもの	4.0%	7.1%	5.7%	6.2%	7.9%	7.8%
認知症予防に関するもの	21.2%	24.3%	31.4%	26.6%	36.0%	28.1%
その他	1.5%	1.3%	2.9%	0.4%	0.4%	0.0%
特にない	42.5%	48.2%	28.6%	34.7%	33.0%	37.5%

認定状況別クロス

認定状況別にみると、「認知症予防に関するもの」は要支援 1 が 38.2%で最も多くなっています。一方、「特にない」は要支援 2 が 47.6%で最も多くなっています。なお、統計的には認定状況別で有意な差がみられます。

	要支援１	要支援２	事業対象者	受けていない	わからない
件数(n値)	34	21	8	1039	27
食事や栄養に関するもの	26.5%	19.0%	25.0%	22.5%	22.2%
運動に関するもの	14.7%	14.3%	25.0%	31.4%	14.8%
同世代がふれあえる交流の場	14.7%	19.0%	25.0%	20.5%	25.9%
子どもなど他世代との交流の場	2.9%	0.0%	0.0%	4.7%	0.0%
ボランティア活動	5.9%	4.8%	25.0%	4.2%	0.0%
認知症予防に関するもの	38.2%	19.0%	25.0%	26.7%	33.3%
歯や口腔衛生に関するもの	8.8%	23.8%	0.0%	5.9%	7.4%
その他	5.9%	14.3%	0.0%	0.5%	0.0%
特にない	38.2%	47.6%	37.5%	39.2%	40.7%

9 今後の介護や在宅医療について

問 66　今後、仮にあなたが介護が必要な状態になった場合、どのようにしたいですか。（1 つを選択）【第 10 期調査 n=1,194、第 9 期調査 n=1,218】

「介護サービスを利用して、自宅で生活を続けたい」が 54.8%で最も多く、「施設に入所・入居したい」が 20.0%で続いています。

第 9 期から第 10 期にかけて「介護サービスを利用して、自宅で生活を続けたい」は 2.8 ポイント減少しましたが、在宅での生活継続を希望する人が引き続き最も多くなっています。

	第10期調査	第9期調査
家族だけに介護してもらい、自宅で生活を続けたい	11.8%	11.0%
介護サービスを利用して、自宅で生活を続けたい	54.8%	57.6%
施設に入所・入居したい	20.0%	17.6%
その他	0.5%	0.3%
わからない	12.9%	13.5%

性・年齢別クロス

性・年齢別にみると、女性 75～84 歳では 65.2%が「介護サービスを利用して、自宅で生活を続けたい」を選んでいます。一方で、「施設に入所・入居したい」と答えた人は、男性 85 歳以上では 28.6%となっています。統計的には性・年齢別で有意な差がみられます。

	男性65～74歳	男性75～84歳	男性85歳以上	女性65～74歳	女性75～84歳	女性85歳以上
件数(n値)	275	231	35	278	267	64
家族だけに介護してもらい、自宅で生活を続けたい	16.4%	17.7%	20.0%	5.0%	7.1%	7.8%
介護サービスを利用して、自宅で生活を続けたい	48.7%	56.7%	48.6%	53.6%	65.2%	46.9%
施設に入所・入居したい	21.1%	13.9%	28.6%	24.8%	18.0%	25.0%
その他	0.7%	0.0%	0.0%	0.7%	0.4%	1.6%
わからない	13.1%	11.7%	2.9%	15.8%	9.4%	18.8%

世帯類型別クロス

世帯類型別にみると、いずれの世帯類型でも「介護サービスを利用して、自宅で生活を続けたい」と答えた人が最も多くなっています。一方、「施設に入所・入居したい」は１人暮らしで約３割と比較的多くなっています。統計的には世帯類型別で有意な差がみられます。

	１人暮らし	夫婦２人暮らし(配偶者65歳以上)	夫婦２人暮らし(配偶者64歳以下)	息子・娘との２世帯	その他
件数(n値)	195	530	58	220	157
家族だけに介護してもらい、自宅で生活を続けたい	3.1%	14.3%	13.8%	10.9%	9.6%
介護サービスを利用して、自宅で生活を続けたい	53.3%	55.1%	50.0%	60.5%	54.1%
施設に入所・入居したい	29.7%	19.8%	19.0%	15.0%	15.3%
その他	0.0%	0.0%	3.4%	0.5%	1.9%
わからない	13.8%	10.8%	13.8%	13.2%	19.1%

認定状況別クロス

認定状況別にみると、各認定群で回答傾向に大きな差はみられません。統計的には認定状況別で有意な差はみられません。

	要支援１	要支援２	事業対象者	受けていない	わからない
件数(n値)	33	23	8	1044	28
家族だけに介護してもらい、自宅で生活を続けたい	12.1%	8.7%	0.0%	11.4%	17.9%
介護サービスを利用して、自宅で生活を続けたい	63.6%	60.9%	62.5%	55.3%	39.3%
施設に入所・入居したい	21.2%	21.7%	25.0%	19.9%	25.0%
その他	0.0%	0.0%	0.0%	0.6%	0.0%
わからない	3.0%	8.7%	12.5%	12.8%	17.9%

日常生活圏域別クロス

日常生活圏域別にみると、いずれの圏域でも「介護サービスを利用して、自宅で生活を続けたい」が最も多く、鈴鹿第 4 が 63.3%、亀山第 1 が 62.3%、鈴鹿第 3 が 59.4%となっています。一方、「わからない」は鈴鹿第 5 が 20.6%で比較的多くなっています。なお、統計的には日常生活圏域別で有意な差はみられません。

	鈴鹿第１	鈴鹿第２	鈴鹿第３	鈴鹿第４	鈴鹿第５	鈴鹿第６	鈴鹿第７	鈴鹿第８	亀山第１	亀山第２
件数(n値)	128	152	101	90	97	97	122	94	130	129
家族だけに介護してもらい、自宅で生活を続けたい	13.3%	11.2%	8.9%	7.8%	13.4%	9.3%	12.3%	8.5%	9.2%	18.6%
介護サービスを利用して、自宅で生活を続けたい	53.1%	54.6%	59.4%	63.3%	50.5%	55.7%	51.6%	53.2%	62.3%	48.8%
施設に入所・入居したい	21.1%	23.7%	16.8%	12.2%	15.5%	18.6%	25.4%	22.3%	18.5%	24.8%
その他	0.0%	0.7%	1.0%	1.1%	0.0%	0.0%	0.0%	2.1%	0.0%	0.8%
わからない	12.5%	9.9%	13.9%	15.6%	20.6%	16.5%	10.7%	13.8%	10.0%	7.0%

問 66-②　問 66 で「施設に入所・入居したい」と回答した方にお伺いします。どのような条件が整えば、自宅で生活を続けることができると思いますか。（3 つまで選択可）【第 10 期調査 n=222、第 9 期調査 n=193】

「在宅で十分な量の介護サービスを受けられる」が 46.8%で最も多く、「夜間など、急な状態の変化にも対応できる体制」が 33.3%で続いています。最も少ないのは「一人歩き等の見守りなど、地域の支援」で 2.3%です。

第 9 期から第 10 期にかけて「在宅で十分な量の介護サービスを受けられる」は 0.9 ポイント減少しましたが、引き続き最も高い割合を占めています。

	第10期調査	第9期調査
在宅で十分な量の介護サービスを受けられる	46.8%	47.7%
夜間など、急な状態の変化にも対応できる体制	33.3%	44.0%
在宅でも専門的な介護サービスを受けられる	27.0%	27.5%
在宅で十分な医療を受けられる	32.0%	28.0%
介護しやすいような住宅への改修	11.3%	11.9%
一人歩き等の見守りなど、地域の支援	2.3%	0.5%
介護している方への支援	16.2%	19.7%
家事、外出など生活面の手助け	21.6%	28.0%
その他	2.7%	3.6%
わからない	19.8%	9.8%

問 67　今後、自身の身体の状態が悪くなり、介護が必要となったとき、自宅で最期まで療養したいと思いますか。（1 つを選択）
【第 10 期調査 n=1,210、第 9 期調査 n=1,230】

「したいが難しいと思う」が 49.3%で最も多く、次いで「したい」が 21.7%、「わからない」が 18.3%となっており、「したくない」は 10.8%です。

第 9 期から第 10 期にかけて「したいが難しいと思う」は 2.5 ポイント減少していますが、依然として半数近くを占めており、自宅での療養を希望しても実現に難しさを感じる人が多くみられます。

	第10期調査	第9期調査
したい	21.7%	22.6%
したいが難しいと思う	49.3%	51.8%
したくない	10.8%	8.4%
わからない	18.3%	17.2%

性・年齢別クロス

性・年齢別にみると、「したい」は男性 85 歳以上が 40.0%と最も多く、男性 75～84 歳が 29.2%と続いています。統計的には性・年齢別で有意な差がみられます。

	男性65～74歳	男性75～84歳	男性85歳以上	女性65～74歳	女性75～84歳	女性85歳以上
件数(n値)	277	233	35	279	276	65
したい	20.9%	29.2%	40.0%	12.9%	19.9%	27.7%
したいが難しいと思う	50.2%	47.2%	45.7%	46.2%	55.8%	46.2%
したくない	10.8%	7.3%	8.6%	17.2%	8.3%	10.8%
わからない	18.1%	16.3%	5.7%	23.7%	15.9%	15.4%

世帯類型別クロス

「したい」は息子・娘との 2 世帯が 26.4%で最も多く、次いでその他が 23.8%、夫婦 2 人暮らし（配偶者 65 歳以上）が 21.2%となっています。一方、「したいが難しいと思う」は 1 人暮らしが 52.8%、息子・娘との 2 世帯が 52.7%で多くなっています。なお、統計的には世帯類型別で有意な差がみられます。

	１人暮らし	夫婦２人暮らし（配偶者65歳以上）	夫婦２人暮らし（配偶者64歳以下）	息子・娘との２世帯	その他
件数(n値)	199	533	58	220	164
したい	15.1%	21.2%	13.8%	26.4%	23.8%
したいが難しいと思う	52.8%	49.3%	48.3%	52.7%	43.9%
したくない	14.6%	10.9%	17.2%	5.9%	9.8%
わからない	17.6%	18.6%	20.7%	15.0%	22.6%

日常生活圏域別クロス

日常生活圏域別にみると、圏域ごとに回答割合の違いはみられるものの、全体として大きな差はみられません。なお、統計的には日常生活圏域別で有意な差はみられません。

	鈴鹿第１	鈴鹿第２	鈴鹿第３	鈴鹿第４	鈴鹿第５	鈴鹿第６	鈴鹿第７	鈴鹿第８	亀山第１	亀山第２
件数(n値)	129	155	104	92	101	96	124	95	129	131
したい	21.7%	20.0%	22.1%	23.9%	21.8%	31.3%	20.2%	16.8%	19.4%	20.6%
したいが難しいと思う	47.3%	42.6%	46.2%	56.5%	41.6%	38.5%	55.6%	51.6%	58.1%	54.2%
したくない	11.6%	15.5%	10.6%	7.6%	13.9%	10.4%	8.1%	13.7%	6.2%	11.5%
わからない	19.4%	21.9%	21.2%	12.0%	22.8%	19.8%	16.1%	17.9%	16.3%	13.7%

問 68　自宅で最期まで療養するためには、どのようなことが必要だと思いますか。（3 つまで選択可）【第 10 期調査 n=1,174、第 9 期調査 n=1,184】

「訪問介護（ホームヘルパーの訪問）の充実」が 41.6%で最も多く、次いで「症状が急に悪くなったときの入院先の確保」が 40.5%、「かかりつけ医による定期的な訪問診療」「訪問看護（看護師の訪問）の充実」がともに 36.9%となっています。

第 9 期から第 10 期にかけて「症状が急に悪くなったときの入院先の確保」は 6.1 ポイント減少した一方、「訪問看護（看護師の訪問）の充実」は 3.3 ポイント増加しています。在宅医療・介護サービスに関する項目が上位に挙がっています。

	第10期調査	第9期調査
かかりつけ医による定期的な訪問診療	36.9%	42.3%
訪問看護（看護師の訪問）の充実	36.9%	33.6%
訪問介護（ホームヘルパーの訪問）の充実	41.6%	41.2%
24時間対応してくれる相談体制	19.9%	20.4%
症状が急に悪くなったときの入院先の確保	40.5%	46.6%
介護家族への支援	21.9%	21.4%
居住環境の整備	8.0%	7.7%
経済的な支援	21.1%	23.1%
その他	0.6%	0.8%
わからない	12.9%	7.3%

問 69　人生の終末期のことについて話している人がいますか。（複数選択可）
【第 10 期調査 n=1,165、第 9 期調査 n=1,173】

「家族・親族」が 74.7%で最も多く、「そのような人はいない」が 22.4%で続いています。最も少ないのは「弁護士や司法書士」で 0.3%です。

第 9 期から第 10 期にかけて「家族・親族」は 5.5 ポイント増加しました。引き続き人生の終末期について話す相手として、「家族・親族」が中心となっています。

	第10期調査	第9期調査
家族・親族	74.7%	69.2%
医師などの医療従事者	2.0%	1.6%
ケアマネジャーなどの介護従事者	0.7%	0.6%
弁護士や司法書士	0.3%	0.5%
その他	2.9%	4.3%
そのような人はいない	22.4%	26.7%

性・年齢別クロス

性・年齢別にみると、いずれの区分でも「家族・親族」が最も多く、女性 85 歳以上では 79.4%、女性 75～84 歳では 77.9%、女性 65～74 歳では 75.7%となっています。一方、「そのような人はいない」は男性 85 歳以上が 32.4%で最も多くなっています。なお、統計的には性・年齢別で有意な差がみられます。

	男性65～74歳	男性75～84歳	男性85歳以上	女性65～74歳	女性75～84歳	女性85歳以上
件数(n値)	273	228	34	268	258	63
家族・親族	71.8%	73.2%	67.6%	75.7%	77.9%	79.4%
医師などの医療従事者	0.0%	3.1%	2.9%	1.9%	1.2%	7.9%
ケアマネジャーなどの介護従事者	0.4%	1.3%	0.0%	0.0%	1.2%	1.6%
弁護士や司法書士	0.0%	0.4%	0.0%	0.4%	0.0%	3.2%
その他	1.1%	2.6%	2.9%	4.5%	3.5%	4.8%
そのような人はいない	27.1%	23.7%	32.4%	20.5%	18.2%	15.9%

問 70　人生会議（ＡＣＰ）について知っていますか。（1 つを選択）
【第 10 期調査 n=1,190】

※「人生会議（ＡＣＰ）」とは、もしものときのために、本人が望む医療やケアについて前もって考え、家族や信頼できる人、医療・介護の専門家と繰り返し話し合い、共有する取り組みのことです。

「知らない」が 81.7%で最も多く、次いで「聞いたことはある」が 14.0%となっています。「知っている」は 4.3%にとどまっており、人生会議（ＡＣＰ）についての認知は十分とはいえません。

	第10期調査
知っている	4.3%
聞いたことはある	14.0%
知らない	81.7%

問 71　近年、人生を総括し、最期を迎えるに当たって様々な準備を行うことを意味する「終活」が注目されています。あなたは、何か「終活」として取り組んでいることはありますか。（複数選択可）【第 10 期調査 n=1,186、第 9 期調査 n=1,192】

※「エンディングノート」とは、自身の終末期や死後に、家族が様々な判断や手続きを進める際に必要となる情報を書き残すもので、市の窓口等で配布しています。

「身の回りのものの整理や処分」が 49.2%で最も多く、次いで「特にない」が 39.1%、「財産の整理や相続の準備」が 12.1%となっています。

第 9 期から第 10 期にかけて「身の回りのものの整理や処分」は 8.3 ポイント増加し、「特にない」は 8.6 ポイント減少しており、引き続き終活に取り組んでいる内容としては、「身の回りのものの整理や処分」が最も多くなっています。

	第10期調査	第9期調査
「エンディングノート」の作成	8.5%	8.4%
遺言書の作成	4.0%	4.9%
財産の整理や相続の準備	12.1%	10.5%
葬儀やお墓の準備	10.6%	7.2%
身の回りのものの整理や処分	49.2%	40.9%
その他	1.9%	2.3%
特にない	39.1%	47.7%

性・年齢別クロス

性・年齢別にみると、「特にない」は男性 65～74 歳が 50.2%で最も多くなっています。一方、「身の回りのものの整理や処分」は女性 65～74 歳が 59.8%、女性 75～84 歳が 58.5%、女性 85 歳以上が 57.8%で多くなっています。また、「『エンディングノート』の作成」や「遺言書の作成」は男性 85 歳以上で比較的多くなっています。統計的には性・年齢別で有意な差がみられます。

	男性65～74歳	男性75～84歳	男性85歳以上	女性65～74歳	女性75～84歳	女性85歳以上
件数(n値)	271	232	36	276	265	64
「エンディングノート」の作成	4.8%	10.3%	19.4%	8.0%	10.9%	9.4%
遺言書の作成	3.7%	6.0%	16.7%	1.8%	2.3%	4.7%
財産の整理や相続の準備	11.8%	18.1%	13.9%	8.7%	11.3%	12.5%
葬儀やお墓の準備	10.0%	11.6%	25.0%	10.1%	9.8%	9.4%
身の回りのものの整理や処分	37.6%	41.8%	44.4%	59.8%	58.5%	57.8%
その他	1.8%	1.7%	2.8%	2.2%	1.5%	3.1%
特にない	50.2%	43.5%	33.3%	32.2%	30.6%	31.3%

問 71-②　問 71 で「特にない」と回答した方にお伺いします。終活に取り組んでいない理由は何ですか。（複数選択可）【第 10 期調査 n=446】

「何から始めたらよいかわからない」が 50.0%で最も多く、次いで「必要性を感じない」が 42.8%、「誰に相談したらよいかわからない」が 15.2%となっています。終活に取り組んでいない理由として、始め方がわからないことや必要性を感じていないことが上位に挙がっています。

	第10期調査
誰に相談したらよいかわからない	15.2%
何から始めたらよいかわからない	50.0%
（身元保証や死後事務などの）民間サービスや弁護士相談を利用したいが金銭的余裕がない	6.3%
時間的余裕がない	12.6%
必要性を感じない	42.8%

10 認知症について

問 72　認知症は、単なる物忘れとは異なり、アルツハイマー病や脳血管障害などの病気が主な原因となって引き起こされるため、予防したり、進行を遅らせたりすることができると言われています。あなたは認知症についてどの程度知っていますか。（1 つを選択）【第 10 期調査 n=1,202、第 9 期調査 n=1,211】

「ある程度知っている」が 70.0%で最も多く、次いで「知らない」が 20.2%、「よく知っている」が 9.7%となっています。

第 9 期から第 10 期にかけて「ある程度知っている」は 0.8 ポイント増加し、「知らない」は 1.1 ポイント減少しています。認知症について「ある程度知っている」が 7 割を占める一方、「知らない」も 2 割みられます。

	第10期調査	第9期調査
よく知っている	9.7%	9.5%
ある程度知っている	70.0%	69.2%
知らない	20.2%	21.3%

性・年齢別クロス

性・年齢別にみると、「知らない」の割合は高齢層でやや高い傾向がみられるものの、統計的には性・年齢別で有意な差はみられません。

	男性65～74歳	男性75～84歳	男性85歳以上	女性65～74歳	女性75～84歳	女性85歳以上
件数(n値)	275	235	36	276	268	68
よく知っている	10.9%	8.5%	5.6%	10.1%	9.7%	8.8%
ある程度知っている	66.5%	68.5%	69.4%	73.9%	73.9%	64.7%
知らない	22.5%	23.0%	25.0%	15.9%	16.4%	26.5%

日常生活圏域別クロス

日常生活圏域別にみると、「ある程度知っている」は鈴鹿第7が75.4%で最も多く、次いで亀山第1が74.4%、鈴鹿第4が72.7%となっています。一方、「知らない」は鈴鹿第1が23.4%で最も多く、次いで鈴鹿第2が22.2%、鈴鹿第3が21.0%となっています。なお、統計的には日常生活圏域別で有意な差はみられません。

	鈴鹿第１	鈴鹿第２	鈴鹿第３	鈴鹿第４	鈴鹿第５	鈴鹿第６	鈴鹿第７	鈴鹿第８	亀山第１	亀山第２
件数(n値)	128	153	105	88	101	97	126	92	129	129
よく知っている	12.5%	9.2%	10.5%	9.1%	10.9%	10.3%	10.3%	6.5%	7.0%	10.9%
ある程度知っている	64.1%	68.6%	68.6%	72.7%	69.3%	70.1%	75.4%	72.8%	74.4%	70.5%
知らない	23.4%	22.2%	21.0%	18.2%	19.8%	19.6%	14.3%	20.7%	18.6%	18.6%

問 73　「認知症サポーター」（認知症に関する学習会を受講し、認知症の人やその家族を温かく見守る応援者）についてご存知ですか。（1 つを選択）
【第 10 期調査 n=1,184】

「知らない」が 59.6%で最も多く、次いで「名前を聞いたことがある」が 26.0%、「どのような役割か知っているが養成講座は受講していない」が 9.2%となっています。最も少ないのは「サポーター養成講座を受講したことがある」の 5.2%です。認知症サポーターに関する認知は十分とはいえません。

	第10期調査
サポーター養成講座を受講したことがある	5.2%
どのような役割か知っているが養成講座は受講していない	9.2%
名前を聞いたことがある	26.0%
知らない	59.6%

性・年齢別クロス

性・年齢別にみると、「知らない」は女性 85 歳以上が 70.0%で最も多く、次いで男性 65～74 歳が 69.9%、男性 75～84 歳が 68.9%となっています。一方、「名前を聞いたことがある」は女性 75～84 歳が 35.0%で最も多く、「サポーター養成講座を受講したことがある」は女性 65～74 歳が 7.5%で最も多くなっています。統計的には性・年齢別で有意な差がみられます。

	男性65～74歳	男性75～84歳	男性85歳以上	女性65～74歳	女性75～84歳	女性85歳以上
件数(n値)	276	228	35	280	263	60
サポーター養成講座を受講したことがある	3.3%	3.9%	2.9%	7.5%	6.8%	1.7%
どのような役割か知っているが養成講座は受講していない	5.8%	7.0%	5.7%	12.5%	11.8%	8.3%
名前を聞いたことがある	21.0%	20.2%	28.6%	28.9%	35.0%	20.0%
知らない	69.9%	68.9%	62.9%	51.1%	46.4%	70.0%

日常生活圏域別クロス

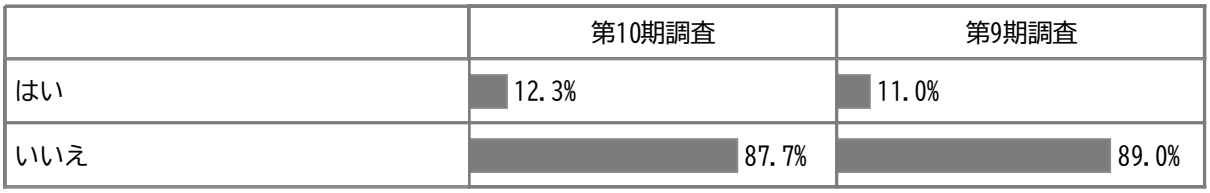
日常生活圏域別にみると、圏域ごとに回答割合の違いはみられるものの、全体として大きな差はみられません。なお、統計的には日常生活圏域別で有意な差はみられません。

	鈴鹿第１	鈴鹿第２	鈴鹿第３	鈴鹿第４	鈴鹿第５	鈴鹿第６	鈴鹿第７	鈴鹿第８	亀山第１	亀山第２
件数(n値)	125	153	102	87	99	98	122	92	127	127
サポーター養成講座を受講したことがある	6.4%	5.2%	2.0%	3.4%	6.1%	3.1%	5.7%	4.3%	7.1%	7.1%
どのような役割か知っているが養成講座は受講していない	5.6%	8.5%	11.8%	12.6%	8.1%	10.2%	11.5%	5.4%	7.1%	12.6%
名前を聞いたことがある	20.8%	30.1%	28.4%	27.6%	31.3%	27.6%	23.0%	30.4%	20.5%	27.6%
知らない	67.2%	56.2%	57.8%	56.3%	54.5%	59.2%	59.8%	59.8%	65.4%	52.8%

問 74　認知症の症状がある、又は家族に認知症の症状がある人がいますか。（1 つを選択）【第 10 期調査 n=1,204、第 9 期調査 n=1,210】

「いいえ」が 87.7%、「はい」は 12.3%となっており、認知症の症状がある人、または家族にその症状がある人は 1 割超みられます。

第 9 期から第 10 期にかけて「いいえ」は 1.3 ポイント減少し、「はい」は 1.3 ポイント増加しています。引き続き認知症の症状がある人、または家族にその症状がある人は 1 割超みられます。



日常生活圏域別クロス

日常生活圏域別にみると、圏域ごとに回答割合の違いはみられるものの、全体として大きな差はみられません。なお、統計的には日常生活圏域別で有意な差はみられません。

	鈴鹿第１	鈴鹿第２	鈴鹿第３	鈴鹿第４	鈴鹿第５	鈴鹿第６	鈴鹿第７	鈴鹿第８	亀山第１	亀山第２
件数(n値)	128	155	105	88	102	98	123	94	130	129
はい	10.2%	16.8%	15.2%	12.5%	9.8%	15.3%	12.2%	12.8%	10.8%	10.1%
いいえ	89.8%	83.2%	84.8%	87.5%	90.2%	84.7%	87.8%	87.2%	89.2%	89.9%

問 75　認知症に関する相談窓口を知っていますか。（1 つを選択）
【第 10 期調査 n=1,173、第 9 期調査 n=1,186】

「いいえ」が 67.2%、「はい」は 32.8%となっており、認知症に関する相談窓口を知らない人が多くみられます。

第 9 期から第 10 期にかけて「いいえ」は 3.4 ポイント減少し、「はい」は 3.4 ポイント増加していますが、認知症に関する相談窓口を知らない人が多く、認知はなお十分とはいえません。

	第10期調査	第9期調査
はい	32.8%	29.4%
いいえ	67.2%	70.6%

日常生活圏域別クロス

日常生活圏域別にみると、「はい」は、鈴鹿第 4 が最も多く 40.9%、鈴鹿第 8 が最も低く 27.2%でした。なお、統計的には日常生活圏域別で有意な差はみられません。

	鈴鹿第１	鈴鹿第２	鈴鹿第３	鈴鹿第４	鈴鹿第５	鈴鹿第６	鈴鹿第７	鈴鹿第８	亀山第１	亀山第２
件数(n値)	126	149	105	88	99	91	121	92	126	124
はい	31.0%	37.6%	30.5%	40.9%	29.3%	28.6%	33.9%	27.2%	34.1%	37.9%
いいえ	69.0%	62.4%	69.5%	59.1%	70.7%	71.4%	66.1%	72.8%	65.9%	62.1%

問 75-②　問 75 で「はい」と回答した方にお伺いします。認知症について相談する場合、どの相談窓口に相談しますか。（複数選択可）
【第 10 期調査 n=384、第 9 期調査 n=347】

「地域包括支援センター」が 64.3%で最も多く、「主治医（かかりつけ医）」が 42.2%で続いています。最も少ないのは「相談するところがない」で 0.3%です。

「地域包括支援センター」は第 9 期から第 10 期にかけて 5.5 ポイント増加しました。相談先としては「地域包括支援センター」が最も多くなっています。

	第10期調査	第9期調査
地域包括支援センター	64.3%	58.8%
認知症初期集中支援チーム	9.1%	8.6%
ケアマネジャー（居宅介護支援事業所）	28.9%	26.8%
介護サービス事業者	9.9%	9.2%
市役所【鈴鹿市保健センター、あいあい（亀山市総合保健福祉センター）を含む】	33.1%	35.4%
鈴鹿亀山地区広域連合	8.9%	10.1%
主治医（かかりつけ医）	42.2%	48.4%
認知症専門の医療機関	22.1%	23.3%
その他	1.3%	0.3%
相談するところがない	0.3%	0.3%

11 介護や保健福祉に関する相談について

問 76　あなたは、介護や保健福祉サービスについて相談したいとき、まずどこに相談しますか。（1 つを選択）【第 10 期調査 n=1,099、第 9 期調査 n=1,077】

「家族・親族」が 49.2%で最も多く、次いで「地域包括支援センター」が 15.6%、「市役所（鈴鹿市保健センター、あいあい（亀山市総合保健福祉センター）を含む）」が 15.3%となっています。

第 9 期から第 10 期にかけて「地域包括支援センター」は 4.9 ポイント増加し、「市役所」は 3.7 ポイント減少しています。相談先としては引き続き家族・親族が中心である一方、「地域包括支援センター」の割合は前回より増加しています。

	第10期調査	第9期調査
家族・親族	49.2%	48.8%
友人・知人・近所の人	2.0%	2.3%
地域包括支援センター	15.6%	10.7%
ケアマネジャー（居宅介護支援事業所）	4.6%	3.8%
介護サービス事業者	0.8%	1.0%
市役所【鈴鹿市保健センター、あいあい（亀山市総合保健福祉センター）を含む】	15.3%	19.0%
鈴鹿亀山地区広域連合	1.3%	0.9%
主治医（かかりつけ医）	7.5%	8.8%
民生委員・児童委員	1.4%	1.7%
その他	0.6%	0.3%
相談するところがない	1.7%	2.6%

日常生活圏域別クロス

日常生活圏域別にみると、亀山第１では「市役所」が比較的多くなっています。統計的には日常生活圏域別で有意な差はみられません。

	鈴鹿第１	鈴鹿第２	鈴鹿第３	鈴鹿第４	鈴鹿第５	鈴鹿第６	鈴鹿第７	鈴鹿第８	亀山第１	亀山第２
件数(n値)	115	138	95	82	92	91	117	87	115	121
家族・親族	50.4%	48.6%	48.4%	46.3%	55.4%	52.7%	45.3%	47.1%	50.4%	43.8%
友人・知人・近所の人	0.9%	2.2%	1.1%	4.9%	2.2%	2.2%	2.6%	2.3%	1.7%	0.8%
地域包括支援センター	17.4%	18.8%	20.0%	14.6%	10.9%	14.3%	17.9%	12.6%	14.8%	16.5%
ケアマネジャー（居宅介護支援事業所）	6.1%	7.2%	2.1%	7.3%	7.6%	3.3%	5.1%	3.4%	1.7%	2.5%
介護サービス事業者	1.7%	0.7%	1.1%	2.4%	1.1%	0.0%	0.0%	1.1%	0.0%	0.8%
市役所【鈴鹿市保健センター、あいあい（亀山市総合保健　福祉センター）を含む】	11.3%	10.9%	13.7%	8.5%	13.0%	13.2%	14.5%	14.9%	28.7%	22.3%
鈴鹿亀山地区広域連合	0.9%	2.2%	0.0%	1.2%	1.1%	1.1%	0.9%	1.1%	0.9%	1.7%
主治医（かかりつけ医）	7.8%	7.2%	8.4%	11.0%	8.7%	9.9%	9.4%	10.3%	1.7%	3.3%
民生委員・児童委員	0.9%	0.7%	1.1%	1.2%	0.0%	2.2%	1.7%	2.3%	0.0%	4.1%
その他	0.9%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.3%	0.0%	2.5%
相談するところがない	1.7%	1.4%	4.2%	2.4%	0.0%	1.1%	2.6%	2.3%	0.0%	1.7%

問 77　鈴鹿亀山地区には、介護サービスなどに関する身近な相談の場として、鈴鹿市内に 8 か所、亀山市内に 2 か所の「地域包括支援センター」があります。地域包括支援センターをご存知ですか。（1 つを選択）
【第 10 期調査 n=1,173、第 9 期調査 n=1,187】

「自分の居住する地区を担当するセンターを知っている」が 37.3%で最も多く、次いで「地域包括支援センターのことは知らない」が 33.8%、「地域包括支援センターのことは知っているが、自分の居住する地区を担当するセンターがどこなのか知らない」が 28.9%となっています。

第 9 期から第 10 期にかけて「自分の居住する地区を担当するセンターを知っている」は 6.5 ポイント増加していますが、「地域包括支援センターのことは知らない」も 3 割を超えています。

	第10期調査	第9期調査
自分の居住する地区を担当するセンターを知っている	37.3%	30.8%
地域包括支援センターのことは知っているが、自分の居住する地区を担当するセンターがどこなのか知らない	28.9%	29.5%
地域包括支援センターのことは知らない	33.8%	39.7%

性・年齢別クロス

性・年齢別にみると、「自分の居住する地区を担当するセンターを知っている」は女性 85 歳以上で 55.7%と最も多く、「地域包括支援センターのことは知らない」は男性 65～74 歳で 44.4%と比較的多くなっています。統計的には性・年齢別で有意な差がみられます。

	男性65～74歳	男性75～84歳	男性85歳以上	女性65～74歳	女性75～84歳	女性85歳以上
件数(n値)	275	231	33	273	261	61
自分の居住する地区を担当するセンターを知っている	28.7%	28.1%	33.3%	39.6%	48.3%	55.7%
地域包括支援センターのことは知っているが、自分の居住する地区を担当するセンターがどこなのか知らない	26.9%	31.6%	33.3%	31.9%	27.6%	19.7%
地域包括支援センターのことは知らない	44.4%	40.3%	33.3%	28.6%	24.1%	24.6%

日常生活圏域別クロス

日常生活圏域別にみると、鈴鹿第 1 では「自分の担当するセンターを知っている」、鈴鹿第 8 では「知らない」が比較的多くなっています。統計的には日常生活圏域別で有意な差はみられません。

	鈴鹿第1	鈴鹿第2	鈴鹿第3	鈴鹿第4	鈴鹿第5	鈴鹿第6	鈴鹿第7	鈴鹿第8	亀山第1	亀山第2
件数(n値)	127	148	102	91	95	96	117	92	129	128
自分の居住する地区を担当するセンターを知っている	48.0%	37.2%	41.2%	37.4%	37.9%	32.3%	33.3%	35.9%	35.7%	39.8%
地域包括支援センターのことは知っているが、自分の居住する地区を担当するセンターがどこなのか知らない	25.2%	29.7%	27.5%	25.3%	24.2%	36.5%	35.9%	23.9%	27.9%	29.7%
地域包括支援センターのことは知らない	26.8%	33.1%	31.4%	37.4%	37.9%	31.3%	30.8%	40.2%	36.4%	30.5%

問 77-②　問 77 で「自分の居住する地区を担当するセンターを知っている」と回答した方にお伺いします。地域包括支援センターへ相談したことがありますか。相談内容は、どのようなことでしたか。（複数選択可）【第 10 期調査 n=428】

「相談したことはない」が 62.9%で最も多く、次いで「介護保険の申請やサービス利用に関すること」が 28.3%、「介護予防・健康づくりに関すること」が 7.0%となっています。地域包括支援センターへの相談内容は、介護保険の申請やサービス利用に関するものが中心となっています。

	第10期調査
介護予防・健康づくりに関すること	7.0%
介護保険の申請やサービス利用に関すること	28.3%
成年後見制度の利用に関すること	0.5%
高齢者の虐待に関すること	0.2%
生活支援（買い物・見守り）に関すること	2.6%
その他	5.8%
相談したことはない	62.9%

日常生活圏域別クロス

日常生活圏域別にみると、「介護保険の申請やサービス利用に関すること」は鈴鹿第 8 が 37.5%で最も多く、次いで鈴鹿第 4 が 36.4%となっています。また、「その他」は鈴鹿第 4 が 15.2%で比較的多くなっています。なお、統計的には日常生活圏域別で有意な差はみられません。

	鈴鹿第１	鈴鹿第２	鈴鹿第３	鈴鹿第４	鈴鹿第５	鈴鹿第６	鈴鹿第７	鈴鹿第８	亀山第１	亀山第２
件数(n値)	58	55	41	33	34	31	39	32	46	50
介護予防・健康づくりに関すること	3.4%	5.5%	7.3%	3.0%	8.8%	19.4%	10.3%	0.0%	10.9%	2.0%
介護保険の申請やサービス利用に関すること	31.0%	21.8%	31.7%	36.4%	20.6%	29.0%	25.6%	37.5%	28.3%	26.0%
成年後見制度の利用に関すること	1.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.2%	0.0%
高齢者の虐待に関すること	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.6%	0.0%	0.0%	0.0%
生活支援（買い物・見守り）に関すること	0.0%	0.0%	2.4%	6.1%	2.9%	6.5%	5.1%	3.1%	2.2%	2.0%
その他	3.4%	9.1%	2.4%	15.2%	2.9%	0.0%	7.7%	9.4%	8.7%	2.0%
相談したことはない	65.5%	67.3%	61.0%	48.5%	73.5%	61.3%	56.4%	53.1%	63.0%	70.0%

問 77-③　問 77－②で「介護予防・健康づくりに関すること」～「その他」と回答した方にお伺いします。今後もまた、地域包括支援センターに相談したいと思いますか。（1 つを選択）【第 10 期調査 n=155】

「相談したい」が 60.6%で最も多く、「ぜひ相談したい」が 30.3%で続いています。地域包括支援センターへの相談意向は高くなっています。

	第10期調査
ぜひ相談したい	30.3%
相談したい	60.6%
あまり相談したくない	2.6%
相談したくない	0.0%
わからない	6.5%

日常生活圏域別クロス

日常生活圏域別にみると、「ぜひ相談したい」は鈴鹿第 5 が 55.6%で最も多く、次いで鈴鹿第 6 が 54.5%、鈴鹿第 4 が 50.0%となっています。一方、「相談したい」は亀山第 1 が 76.5%で最も多く、各圏域で比較的多くなっています。また、「あまり相談したくない」は亀山第 1 が 11.8%、鈴鹿第 8 が 6.7%となっています。なお、統計的には日常生活圏域別で有意な差はみられません。

	鈴鹿第１	鈴鹿第２	鈴鹿第３	鈴鹿第４	鈴鹿第５	鈴鹿第６	鈴鹿第７	鈴鹿第８	亀山第１	亀山第２
件数(n値)	18	18	16	16	9	11	17	15	17	15
ぜひ相談したい	22.2%	33.3%	25.0%	50.0%	55.6%	54.5%	29.4%	13.3%	5.9%	33.3%
相談したい	66.7%	55.6%	62.5%	50.0%	44.4%	45.5%	64.7%	66.7%	76.5%	66.7%
あまり相談したくない	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	6.7%	11.8%	0.0%
相談したくない	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
わからない	11.1%	11.1%	12.5%	0.0%	0.0%	0.0%	5.9%	13.3%	5.9%	0.0%